

令和 2 年度
事業報告書

(自) 令和 2 年 4 月 1 日

(至) 令和 3 年 3 月 31 日

社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会

目 次

総 括	1
会員の状況	2
法人運営の状況	3
地域福祉の部	10
包括支援の部	29
居宅介護の部	42
自立支援の部	48

【巻末】法人運営理念・サービス精神・職員心得

総 括

社会の構造的変化に伴いひとり暮らし高齢者や認知症高齢者の増加、また厳しい経済状況を背景とした生活困窮者や地域から孤立する世帯の増加など、様々な福祉課題が山積しています。こうした状況に加え、新型コロナウイルス感染症の広がりや人々や地域社会にも大きな影響を及ぼし、人と地域社会とのつながりがさらに脆弱化しているとも言えます。

南丹市社会福祉協議会(以下「社協」)では多様化・複雑化する福祉課題や新型コロナウイルス感染症の影響により脆弱化した地域社会に対応すべく、行政と社協が一体となり策定した「第3期南丹市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を基盤に「みんなでつくる、誰もが安心して、つながりながら住み続けられるまち」の実現に向け、様々な取り組みを進めてまいりました。

地域福祉部門では、それぞれの地域の状況や課題に対応すべく地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターが中心となり、様々な取り組みを進めてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、計画していた取り組みの多くは、中止あるいは規模縮小を余儀なくされました。そうした中、社協ではコロナ禍における新しい地域福祉活動の研究と検討を進めてまいりました。こうした取り組みを重ねていく中で、地域福祉活動の新たな実践やつながりを構築することができ、今後の地域福祉活動のさらなる可能性を感じる結果となりました。生活福祉資金貸付事業(京都府社協委託事業)、生活困窮者自立支援事業(南丹市委託事業)では、新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した世帯への支援や資金の貸付件数が大幅に増加し、担当課においては対応に追われる状況が続きました。また社協では多様化・複雑化するニーズに対し細やかに支援・対応できるよう、成年後見利用促進にも努めてまいりました。

包括支援部門においては、引き続き高齢者が安心して住み慣れた地域で生活が送れるよう相談支援事業、権利擁護事業、介護支援専門員に対する支援の充実等に取り組んでまいりました。また新型コロナウイルス感染症関連の相談も多く寄せられ、様々な相談内容にも柔軟に対応してきた一年でもありました。

居宅介護部門、自立支援部門においても新型コロナウイルス感染症の影響は非常に大きく、事業運営や対応に悩まされた一年となりました。各事業では徹底した感染予防対策を講じながら、安心安全な事業運営に取り組んでまいりました。その結果、年間を通して事業を継続することができたことは大きな成果であったとも言えます。一方で社協らしいサービスを提供するために、法人内他部門との連携強化に努めてまいりました。障害福祉サービス事業では、障がい児、障がい者の地域での安心できる生活の継続だけでなく、すべての人々がどのような立場でもその背景を理解し、支え認め合う「地域共生社会」の実現に向け取り組んでまいりました。業績については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり減収となり、厳しい決算となりました。引き続きあらゆる改革に取り組み、一刻も早く財政健全化を成し遂げてまいります。

会員の状況

事務所	世帯数	普通会員		特別会員		世帯加入率 普通・特別計
		件数	金 額	件数	金 額	
本 所	—	12	12,000	7	24,000	—
園部事務所	7,226	2,816	2,802,500	13	29,000	39.2 %
八木事務所	3,018	1,742	1,740,000	7	21,000	58.0 %
日吉事務所	2,088	1,195	1,195,000	13	31,000	57.9 %
美山事務所	1,763	1,133	1,133,000	14	32,000	65.1 %
合 計	14,095	6,898	6,882,500	54	137,000	49.3 %

事務所	賛助会員		ふるさと会員		本年度合計金額
	件数	金 額	件数	金 額	
本 所	11	110,000	1	10,000	156,000
園部事務所	67	335,000	0	0	3,166,500
八木事務所	4	45,000	0	0	1,806,000
日吉事務所	13	65,000	0	0	1,291,000
美山事務所	10	76,000	0	0	1,241,000
合 計	105	631,000	1	10,000	7,660,500

事務所	普通・特別会費 前年度対比		会費合計 前年度対比	
	前年度金額	増 減	前年度金額	増 減
本 所	25,000	11,000	135,000	21,000
園部事務所	2,929,500	△ 98,000	3,269,500	△ 103,000
八木事務所	1,719,000	42,000	1,793,000	13,000
日吉事務所	1,212,000	14,000	1,277,000	14,000
美山事務所	1,139,500	25,500	1,209,500	31,500
合 計	7,025,000	△ 5,500	7,684,000	△ 23,500

令和 2 年度 法人運営の状況

＜理事会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5月29日 (金)	書面決議	理事 15 監事 2 その他 9	① 規則・規程の改正 ② 委員選任の同意 ③ 令和元年度事業報告(案)の同意 ④ 令和元年度決算(案)の同意 ⑤ 職員重要人事の同意 ⑥ 評議員会の招集
第 2 回	9月30日 (水)	日吉町生涯 学習センター	理事 14 監事 1 その他 9	① 令和2年度 第1次補正予算(案) ② 運営規程の制定・改正 ③ 評議員会の招集 ④ 会長・常務理事の業務執行状況の報告
第 3 回	3月31日 (水)	日吉町生涯 学習センター	理事 14 監事 1 その他 9	① 令和3年度事業計画(案) ② 令和3年度収支予算(案) ③ 定款変更(案) ④ 規則・規程の改正 ⑤ 委員選任の同意 ⑥ 評議員会の招集

＜評議員会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	6月18日 (木) ※令和元年度会計に関する 定時評議員会	日吉町生涯 学習センター	評議員 17 理事 4 監事 2	① 令和元年度 事業報告(案)の承認 ② 令和元年度 決算(案)の承認
第 2 回	9月30日 (水)	日吉町生涯 学習センター	評議員 16 理事 4 監事 1	① 令和2年度 第1次補正予算(案)の承認
第 3 回	3月31日 (水)	日吉町生涯 学習センター	評議員 19 理事 4 監事 1	① 令和3年度事業計画(案)の承認 ② 令和3年度収支予算(案)の承認 ③ 定款変更(案)について

＜監事監査の実施状況＞

回	開催日	場所	出席	監査事項・指摘事項
第 1 回	5月21日 (木)	本 所	監事 2 理事 2	① 令和元年度 事業(法人運営・実施事業等) ② 令和元年度 決算(会計・経理等) ※適正と認める
第 2 回	12月2日 (水)	本 所	監事 2 理事 2	① 令和2年度 上半期事業(法人運営・実施事業等) ② 令和2年度 上半期会計(会計・経理等) ※適正と認める

＜理事会総務部会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5月12日 (火)	本 所	委員 4 その他 4	① 新型コロナウイルス感染症への対応について ② 理事会審議事項について ③ 令和元年度 事業報告(案)及び決算(案)について ④ 規程の改正について
第 2 回	8月24日 (月)	本 所	委員 4 その他 3	① 新型コロナウイルス感染症への対応について ② 理事会審議事項について ③ 第1四半期 経営事業収支について
第 3 回	12月8日 (火)	本 所	委員 4 その他 4	① 令和2年度上半期事業報告・収支状況について ② 新型コロナウイルス感染症への対応について ③ 基幹システムの変更について
第 4 回	3月10日 (水)	本 所	委員 4 その他 4	① 新型コロナウイルス感染症への対応について ② 理事会・評議員会 審議事項について

＜理事会地域福祉部会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5月14日 (木)	本 所	委員 5 その他 5	① 新型コロナウイルス感染症への対応について ② 理事会審議事項について ③ 令和元年度 事業報告(案)及び決算(案)について ④ 規程の改正について
第 2 回	8月27日 (木)	本 所	委員 4 その他 5	① 新型コロナウイルス感染症への対応について ② 理事会審議事項について ③ 第1四半期 経営事業収支について
第 3 回	12月9日 (水)	本 所	委員 4 その他 5	① 令和2年度上半期事業報告・収支状況について ② 新型コロナウイルス感染症への対応について
第 4 回	3月15日 (月)	本 所	委員 5 その他 5	① 新型コロナウイルス感染症への対応について ② 理事会・評議員会 審議事項について

＜理事会事業部会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5月13日 (水)	本 所	委員 3 その他 5	① 新型コロナウイルス感染症への対応について ② 理事会審議事項について ③ 令和元年度 事業報告(案)及び決算(案)について ④ 規程の改正について
第 2 回	8月26日 (水)	本 所	委員 4 その他 5	① 新型コロナウイルス感染症への対応について ② 理事会審議事項について ③ 第1四半期 経営事業収支について
第 3 回	12月9日 (水)	本 所	委員 3 その他 5	① 令和2年度上半期事業報告・収支状況について ② 新型コロナウイルス感染症への対応について ③ 規則の改正について
第 4 回	3月10日 (水)	本 所	委員 4 その他 5	① 新型コロナウイルス感染症への対応について ② 理事会・評議員会 審議事項について

＜役員(理事・監事)研修会の実施状況＞

回	開催日	場所	出席	内容
第 1 回	1月28日 (木)	本 所	理事 5	福祉ビジョン21世紀セミナー ① コロナ禍から見える社会保障の役割と展望 ② ウィズコロナ時代の新たな都市と地方の役割 ③ コロナ禍における子どもの愛着形成
第 2 回	2月16日 (火)	本 所	理事 5	令和2年度役職員セミナー ① 包括的相談体制での社協の役割を考える ② 実戦報告

〈正・副会長会の開催状況〉

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	4月23日 (木)	本 所	新型コロナウイルス感染症への対応について 経営事業の収支状況について 令和2年度 賞与基準支給率について
第 2 回	5月19日 (火)	本 所	新型コロナウイルス感染症への対応について 令和元年度決算(案)について 利用料未納金の回収対応について
第 3 回	6月16日 (火)	本 所	定時評議員会について 京都府への要望活動について 新型コロナウイルス感染症への対応について
第 4 回	7月30日 (木)	本 所	新型コロナウイルス感染症への対応について 南丹市長への要望活動について 八木デイサービスセンター特浴設備 修繕工事について
第 5 回	8月24日 (月)	本 所	令和3年度当初予算にかかる市長会談について ひより舎新規就労支援事業について そよかぜ日吉の移転について
第 6 回	9月24日 (木)	本 所	職員人事について 非常勤職員(運転業務従事者)の定年について 生活福祉資金 特例貸付実施状況について
第 7 回	10月29日 (木)	本 所	令和3年度当初予算要望について ほほえみ八木訪問介護事業所 利用者預り金紛失事案について 新型コロナウイルス感染症 緊急包括支援事業について
第 8 回	11月25日 (水)	日吉事務所	令和2年度上半期事業報告(案)・中間決算について 役員会スケジュールについて 八木デイサービスセンター修繕工事について
第 9 回	12月23日 (水)	本 所	年末年始の対応について 南丹市障害者支援施設運営委員会について 新型コロナウイルス感染症の対応について
第 10 回	1月28日 (木)	本 所	令和3年度役職員セミナーについて 新型コロナウイルス感染症の対応について 慰労金について 令和3年度職員採用募集について
第 11 回	2月26日 (金)	本 所	理事会審議事項について 業務組織・機構改革について みんなで一歩プロジェクトについて
第 12 回	3月26日 (金)	本 所	職員採用状況について 災害ボランティアセンターの協定締結について 京都府共同募金会の役員選出について

<企画委員会の開催状況>

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	3月 ()		書面による報告・意見聴取 今年度地域福祉事業進捗報告 次年度事業計画案について

<企画小委員会 合同会議の開催状況>

回分	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	中止 ()		(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

<園部町企画小委員会の開催状況>

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	6月29日 (月)	国際交流会館	令和元年度事業報告、令和2年度事業計画 今年度の活動状況報告 地域別懇談会について 他
第 2 回	2月24日 (水)	国際交流会館	園部町内の地域課題等 令和3年度事業計画案 地域別懇談会について 他

<八木町企画小委員会の開催状況>

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	8月17日 (月)	八木事務所	今年度の事業進捗状況について 地域別懇談会について 他
第 2 回	9月15日 (火)	八木事務所	地域別懇談会について
第 3 回	9月29日 (火)	八木事務所	地域別懇談会について
第 4 回	3月23日 (火)	八木市民センター	今年度のふりかえり 地域の状況報告 次年度について

<日吉町企画小委員会の開催状況>

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	8月19日 (水)	本所	日吉エリア職員体制・地域福祉部事業計画について 地域別福祉懇談会について たすけあい会議について
第 2 回	3月18日 (木)	本所	生きがい活動支援通所事業について 地域別福祉懇談会について 今後の方向性

＜美山町企画小委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	9月16日 (水)	美山保健福祉センター	各種事業実施状況報告 コロナ対策をふまえた対応について 他

＜広報委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	4月 ()		書面による報告・意見聴取 今年度の広報発行計画について 『なんたん社協だより』(第45号)の発行(7/24)について
第 2 回	8月27日 (木)	本 所	『なんたん社協だより』(第46号)の発行(9/25)について
第 3 回	12月8日 (火)	本 所	『なんたん社協だより』(第47号)の発行(1/8)について
第 4 回	2月 ()		書面による報告・意見聴取 『なんたん社協だより』(第48号)の発行(3/19)について

＜ボランティアバンク運営委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	6月 ()		書面による報告・意見聴取 V基金運用、前年度事業報告、今年度事業計画等の説明 ボランティアバンク助成(グループ・ボラ連)について 他
第 2 回	8月21日 (金)	本 所	南丹市ボランティア交流会の中止について ぼらん(第2版)の発行について 他 ボランティアグループ活動助成審査
第 3 回	10月29日 (木)	日吉事務所	ボランティアグループ活動特別助成事業審査 今後の助成審査について
第 4 回	3月 ()		書面による報告・意見聴取 令和3年度ボランティアグループ活動助成事業の申請・審査の一部変更について

＜福祉資金調査委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	7月17日 (金)	本 所	くらしの資金 夏期貸付、特例貸付について 償還状況、不納欠損処理適応について 生活福祉資金 借受者の状況、特例貸付について 他
第 2 回	12月10日 (木)	本 所	くらしの資金 冬期貸付について 償還状況、不納欠損処理適応について 生活福祉資金 借受者の状況、特例貸付について 他

＜苦情解決第三者委員会・個人情報保護委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	3月		書面による報告・意見聴取

＜善意銀行運営委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	3月		書面による報告・意見聴取

◇ 令和2年度 ボランティア基金 運用実績

(金額単位：円)

基金原資 ①	利 息 ②	売買による損益 ③	運用益合計 ④＝②＋③	年間運用率 ⑤＝④÷①×100
93,000,000	2,179,000	0	2,179,000	2.343%

※運用率は少数点第4位切り捨て

◇ 令和2年度 福祉基金(善意銀行積立金) 残額

(金額単位：円)

区分	内 容	積立額	取崩額	
繰越	前年度末積立金残高	53,935,360	0	
取崩	見舞金(1件) 家屋半焼	0	30,000	
積立	預金利息・寄付金	2,741,916	0	積立金残額
合 計		56,677,276	30,000	56,647,276

地域福祉の部

1. 住民が主体的に取り組む地域づくりの支援

① 見守りネットワーク活動の充実

新型コロナウイルスの影響により、見守り活動に取り組みにくい状況が続く中、高齢者等様子伺いアンケートを実施し、外出自粛期間中の生活状況や困りごとについて調査を行った。

また、新たなプロジェクトを立ち上げ、コロナ禍における地域活動の進め方ヒント集を作成し地域福祉活動関係者に配布し、健康すごろくを作成して高齢者等に広く配布した。

◆「高齢者等様子伺いアンケート」（包括支援部との合同事業） 【新規】

新型コロナウイルス感染症予防のため、外出自粛が続いていることによる高齢者等の生活の困りごとの調査を行うと同時に、非接触での見守りとして実施。

〔調査対象〕「あんしん・あんぜん情報」を受け取っておられる方（約 4500 世帯）

〔調査期間〕令和 2 年 6 月～7 月

〔調査方法〕民生委員・ふれあい委員からアンケートハガキを配布、郵送等により回収

〔回答数〕677 件

〔把握した主な内容〕多く見られたのは気分の落ち込みやストレス等心の不調であった。ご近所、友人、家族親族と会えなかったこととの関連や外出機会が減ったことによる運動不足との関連もうかがえた。

◆「それぞれの 1 歩プロジェクト」 【新規】

コロナ禍の現在、各地域で地域福祉活動に対して不安を抱え、「社協としてどう考えているのか？」という声や地域福祉活動が無いことへの不安や寂しさをうったえる声が多く寄せられている。こうした声に応えるため、地域活動のヒントになる冊子を作成し、地域福祉活動関係者に配布をおこなった。

◆「みんなで一歩プロジェクト～元気に春を迎えよう～」健康づくりすごろくの配布 【新規】

あんしんあんぜん情報を届け見守り訪問等でおかわりのある方々を対象にして、健康づくりすごろくを推奨するもので、令和 3 年 2 月～4 月にかけて取り組んでもらっている。

（運動や健康、交流の面で個人レベルで取り組める内容を設定し、日々実施するごとに南丹市のマップ上に設定したコマをすすむというすごろくを作成。）

地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーター、地域包括支援センターが主体となって計画を進め、商工会の理解も得て市内事業者から景品提供を受け、市域全体で高齢者等の地域での暮らしを応援しようとするもので、集まれなくてもつながりを感じ前向きになってもらえることをねらいとした。

〔配布数〕約 6,000 枚

〔協力事業者数〕48 事業所・団体

〔実施期間〕令和 3 年 2 月初め～4 月 23 日（すごろくゴール達成者 のべ 667 名）

◆「あんしんあんぜん情報（見守りチラシ）」の発行 （月 1 回発行、印刷部数：4,500 枚／回）

<テーマ>

4 月	感染症予防のための 3 か条	10 月	脳を活性化させよう！
5 月	室内でも体操&トレすごろくーニングを	11 月	ヒートショックにご注意を！！
6 月	新型コロナウイルスに関する詐欺啓発	12 月	始めてみませんか？“ラジオ体操”
7 月	熱中症対策	1 月	冬は火災の多い季節です
8 月	「新型コロナウイルスによる外出自粛期間中のアンケート調査」調査結果	2 月	健康寿命を伸ばしましょう！
9 月	防災対策考えてみましょう	3 月	コロナ禍の今だからこそウォーキング

◆民生児童委員・ふれあい委員協働の見守りネットワーク（日吉町）

・毎月 15 日をあんしんあんぜんの日と定め、民生児童委員・ふれあい委員で見守りチラシを配布

- ・所定の様式を作り、見守り情報の報告が社協に届く仕組みを構築。情報はまとめて次月のチラシと一緒に報告することで共有。
- ・今年度から見守り情報に対し、社協から返答や情報提供を行っている
- ・オンラインサロン練習会として交流会を開催（2/25、3/26）

◆ふれあい型給食（毎月1回）

998食（園部360食、八木441食、美山197食）※3月末現在

◆各町民生児童委員協議会 総会・定例会等への参加

（共通事項）歳末たすけあい募金激励金助成事業、見守り訪問事業の協力依頼・説明

9/24 園部・・・地域づくりの取組の現状報告／「ひとり暮らし高齢者の集い」を中止する件

9/23 八木

9/18 日吉

9/15 美山・・・ふれあい委員との連絡協力、社協との連携について依頼

毎月あんしん・あんぜん情報を定例会で配布

・美山町各地区での情報交換会への参加(包括支援センター主催)

10/9 宮島、10/12 大野、10/22 鶴ヶ岡、10/26 平屋、11/2 知井

◆「ふれあい委員研修会」／「ふれあい委員ブロック会議」等

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月のふれあい委員研修会は中止。

別途、ブロック会議等でふれあい委員の役割・活動について説明を行った。

園部町「ふれあい委員 ブロック会議」

6ブロックで実施（元桐 8/27、摩気 8/26、川辺 8/8、元町 9/4、西本梅 10/7、元村 9/26）

内容：普段の活動紹介、民生児童委員との意見交換、地域での認知症の方への対応、ふれあい教室事業終了について、総合事業簡易型訪問型サービスDの制度化、合同サロン取組みの協議

「ふれあい委員正副ブロック長会議」（3月4日）

6ブロックの正副代表を対象に実施。年度の振り返りや課題の共有、意見交換を行う。

南丹市訪問型サービスD事業、実証実験について紹介。

八木町「ふれあいネットワーク会議」

年3回開催（7月、9月、11月 ※5月と2月は緊急事態宣言発令中のため中止）

内容：ふれあい委員の役割やネットワーク会議について説明、地域の見守り情報交換、勉強会開催（知ってあんしん介護保険、地域包括ケアシステム、基本チェックリスト）等

日吉町「新任ふれあい委員研修会」

8月6日（木） 内容：ふれあい委員の役割・活動内容について

参加者：9名（2名リモート参加）

美山町「ふれあい委員・民生児童委員交流会」（※）ふれあい委員研修を兼ねる。

地区	月日	人数	内 容
大野	9月25日（金）	8名	民生委員・ふれあい委員の情報交換会
知井	10月9日（金）	10名	民生委員と見守り対象者の情報共有
宮島	11月10日（火）	7名	民生委員との交流、サロン情報の共有、地域福祉活動計画の策定について他
平屋	12月4日（金）	7名	民生委員との交流、福祉協との情報交換、サロン情報の共有

◆住民主体の見守り活動

- ・「近隣ミニネットワーク」（園部町木崎町区）

希望する高齢者を対象に協力員が戸別訪問し、サロンなど集いの場への参加を呼び掛けや、日頃の安否確認、災害時の避難誘導などを行う活動を継続している。

- ・「健友会見守り訪問活動」（園部町新町区）

対象者と「出会う」「訪問」「電話」した回数を記録し、第1月曜日に情報共有を行い1度も関わりのなかった方を訪問。

・「高齢者宅見守り活動」（美山町知井地区）

65歳以上独居、世帯員が70歳以上のみの世帯を対象に、消防団員、民生児童委員、ふれあい委員、振興役員が訪問し、防火点検と指導、災害時の連絡方法や避難誘導、心配事の聞き取りなど実施。

◆地域福祉活動助成「ミラたね助成」事業

助成件数：計2件

① 室河原区防災マップづくり（八木町）

事務局として社協もマップづくりに参加

② 南地区「みんなの居場所」に向けての意見交換会の開催（八木町）

8/26 サロン代表者との懇談会に社協も参加する

11/11 亀岡市社会福祉協議会と亀岡市のサロン代表者の方との懇談会に社協も参加する

◆「ひとり暮らし高齢者のつどい」（園部町）

コロナ禍の状況を鑑みて民児協と打合せ、今年度は中止とした。

おしらせなんたん・CATV文字放送にて広報を行った。

② 居場所・交流の場づくりの推進【重点】

新型コロナウイルス感染症の心配から活動を中止するサロンも多くあったため、つながりを切らさないように電話や訪問による安否確認等の活動を行ったサロンに対し、特例助成を実施した。

また、サロンへの情報発信を強化するため、新たに「Hello! salon mate」の発行を開始し、サロン活動再開に不安を感じている方等への情報提供に努めた。

コロナ禍の影響による活動休止を機に、サロンの継続自体が難しくなっているところもあり、今後の支援方法について検討が必要である。

◆ふれあいいきいきサロン

・サロン登録数（3月末現在）

	園部	八木	日吉	美山	全体
R2年度	50	18	16	35	119
（参考）R1年度末	49	17	18	39	123

・各種助成（3月末現在）

助成事業	助成内容	実績	助成額
(1) サロン立上げ助成	新規立上げ (20,000円)	おしゃべりサロン嶋 みんなの遊び場西本梅 檜原なんてんサロン	合計 1,044,550円
(2) サロン活動助成	(2) 参加者1人 月1回150円	(2) のべ5,691人	
(3) サロン特例助成(※) (※サロン未開催の場合)	(3) 登録者1人 月1回50円	(3) のべ3,016人分	(昨年度助成実績額) 1,663,800円

(2) サロンどうしの交流、活動紹介・情報発信の充実

◆「南丹市サロン意見交換会」

日 時：10月28日（木）14：00～15：30

会 場：（南部）やぎ詩の郷 （北部）美山事務所

内 容：・自己紹介・サロン自慢

・活動に悩みを抱えるサロン活動者同士の意見交換

参加者：サロン関係者7名、社協職員10名

◆上平屋笑話サロンと北桑田高校美山分校生との交流

- ・北桑田高校生5名が上平屋サロンを訪ね、自身で考えたり制作したゲームを行ったり、グループで懇談を行うなど、地元高齢者との交流を深めた（7月7日）

◆宮島地区サロン代表者交流会

- ・ふれあい委員研修会と兼ねて実施
- ・コロナ禍での活動やスタッフや参加者の高齢化による運営の難しさについて共有できた。

◆西本梅合同いきいきサロン（第3回）

日 時：10月28日（水）10：00～12：00

会 場：旧西本梅小学校

◆「Hello! salon mate」の発行 【新規】

新型コロナウイルスによる影響を受けて、サロン活動再開に不安をお持ちの方や、そもそものサロン運営に悩まれている方に対して、各種情報提供を行い支援することを目的に発行。

発行月	テーマ
6月	サロンとは、特例助成のお知らせ、感染予防対策、ようきはったカフェ紹介
9月	南丹市サロン意見交換会の参加者募集、コロナ禍においても楽しめる貸し出し物品のご紹介、三密を避けてこころを密に（各地の取り組みの紹介）
2月	貸し出し物品、リレートーク、サロン交流会の報告、訪問D事業について、みんなで一歩プロジェクトの紹介

(3) サロン・居場所における介護予防活動の充実

- ・南丹地域リハビリテーション支援センターとの協同で、サロンへのアンケートを実施。コロナ禍での活動状況や地域での介護予防意識についての調査。現在集計中。

(4) ミニデイ終了後の通いの場づくりや参加の促進

- ・ミニデイ終了にあたって、各地域で住民主体による代替え事業立ち上げに向けて協議を行っている。

地域	内容
園部	サロンのない地域において4月以降の場作りについて生き通（ふれあい教室）ヘルパーや区役員、民生委員、ふれあい委員等と打ち合わせを重ねた。（4月に3サロン発足）
八木	町全域を参加エリアとして介護予防の通いの場として「エール」を月2回、社協八木事務所にて開催に向け準備を行った。（4月より開催）
日吉	地域が中心となって実施している場を地道に応援し続けるとともに生き通利用者をはじめ参加者をつなげる働きかけを行った。
大野地区	旧ミニデイスタッフ、振興会、虹の湖ネットワークの有志により、新規団体を立ち上げる。R3年4月から運用開始予定。
知井地区	旧ミニデイスタッフ、振興会、有志により新規団体を立ち上げる。関係者は有償ボランティアとして活動する。R3年5月中旬からの運用開始予定。
宮島地区	旧ミニデイスタッフ有志で新規団体を立ち上げ、宮島協議会で送迎部門を担う。訪問Dを利用し、有償ボランティアとして活動する。利用者窓口として振興会が担う。R3年5月中旬からの運用開始予定。

③ 住民参加型の支え合いサービスの創出

生活支援体制整備事業（※南丹市委託事業）

生活支援コーディネーターを中心に、地域における生活支援ニーズを把握し、市民や関係事業者、行政に対して明らかにするとともに、市民の参加と協力による支え合いのしくみ作りの先進事例等の調査・検討を行い、市民に働きかけを行った。

(1) 地域における生活支援ニーズの把握

i) 地縁組織等多様な主体へのかかわりの中での地域資源やニーズの把握

地域	内 容
園部町全域	町内を6つのブロックに分けて民生児童委員、ふれあい委員会を中心としたブロック会議を開催
元町地区	新町区で健友会が見守り対象者を訪問する活動を継続。
元桐地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内で認知症の方が徘徊される事例があったことから認知症サポーター養成講座を開催。 ・木崎町区で「ちょいっと支援」が区主催で開始され制度がない時には「手伝おうか」と言ってもらえないとお願いできなかったのが依頼者側から「手伝って欲しい」と言えるようになったと非常に好評。木崎町区では近隣ミニネットワーク活動として戸別訪問や避難誘導訓練などの活動を継続。 ・令和3年3月に桐ノ庄郷振興会設立（上木崎町、河原町、木崎町、内林町、瓜生野、熊崎、新堂、千妻、曾我谷）に向けて設立総会を開催。
川辺地区	川辺地区にある児童発達支援事業所「つくし園」の見学内覧会開催を支援して地域住民に施設の事業内容の紹介
摩気地区	摩気高山の郷振興会との会議、「摩気の夢を語る会」で地区福祉の向上について検討、地区合同「まんぷくサロン」（今年度中止）の開催継続支援、地区福祉活動計画策定に向けて検討 摩気高山の郷振興会では「モデル事業」が3年目となり「摩気地区住民福祉活動計画」策定に向け検討会議や事務局会議を開催、また、長期的な将来構想を検討する「摩気の夢を語る会」を開催し活発に議論される。これらの会議に参加し様々な意見を聴取。
西本梅地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興会役員との会議、地区合同「いきいきサロン」の開催継続支援。 ・天引区では車両乗合いによる買い物支援事業「天引お買い物デイ」を8月から月1回継続開催 ・今年度も地域振興会の会長と事務局長がブロック会議に出席され、民生児童委員、ふれあい委員会との意見交換。天引区では「天引お買い物デイ」事業、乗り合いによる買い物支援の実証実験を開始、市社協は公用車を貸与し支援。天引区の運転ボランティア3名全員が福祉有償運送運転協力者養成講座を受講される。
日吉町全域	<ul style="list-style-type: none"> ・よろず相談窓口として受けた相談を受け付けシートに記録。 （4月…4件 5月…8件 6月…3件 7月…5件 8月…3件 9月…1件 10月…3件 11月…1件 12月…2件 1月…4件 2月…1件 3月…2件） ・おれんじスポットひよし（8/18・9/14） ※旧ひよしのまちカフェ（認知症カフェ） ・おれんじスポットひよし実行委員会（6/18・7/13・8/13・8/20・9/25・2/3・3/11） ・はぎの里との懇談（9/17） ・ミニデイ5か所：包括健康相談・認知症予防の話・ミニデイ終了の話 ・農の郷づくり協議会交通部会（6/4・6/16・7/26・10/2） ・新・オンデマンドバス試乗体験イベント（2/19） ・京都スカイセンターとの打合せ（1/20・2/18）
世木地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議 ・ようきはったカフェ（6/6・7/1・9/26） ・殿田サロン（7/7） ・みんなの居場所わっかっか！（6/25・9/17・11/5・3/7・3/28） <p>※11/5は包括支援センターと連携して介護保険の勉強会を開催。基本チェックリストの体験をしていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めぐみ亭カフェ（7/21） ・ふくろのねこ（8/14・9/8） ・世木地域振興会ワークショップ（9/25・10/30・11/27・12/18） ・中世木新米まつり（9/26）
四ツ谷・佐々江地区	<ul style="list-style-type: none"> ・五ヶ荘卓球クラブ（8/21） ・新・オンデマンドバス試乗体験イベント（3/3） <p>※免許返納された高齢者の買物に同行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動販売調査（3/5）

田原地区	・興風デイサービス：保健医療課元気アップ体操体験（8/20） ・興風交流センターデイサービス事業会議（9/16）
胡麻地区	・胡麻地域まちづくり協議会運営委員会（6/22・7/29・8/18） ・胡麻地域まちづくり協議会事務局と京都スカイセンターとの打合せ（8/3） ・脳トレ教室（9/7・2/22） ・元気アップ体操教室（7/3・3/19） ・東胡麻文化振興会スマホ教室（9/25） ・まちカフェサロン（10/11・11/8・12/13・1/10・3/14）
平屋地区	平屋地区地域福祉推進協議会役員会、ふれあい委員・民生委員交流会の開催、大谷大学との交流事業における移動支援に関するアンケート調査
宮島地区	元気にすごせるまち宮島協議会、宮島地区ネットワーク会議、ふれあい委員・民生児童委員交流会、宮島地区地域福祉計画策定委員会
鶴ヶ岡地区	鶴ヶ岡地区地域福祉計画の策定

ii) 関係機関や既存各種会議、部門間連携での把握

- ・園部町内自主防災組織研修交流会（新規）8/21
- ・ほほえみ八木訪問介護事業所所属ヘルパーにアンケート調査実施
- ・認知症カフェこれから会議（朝日新聞社 ウェブメディアなかまある）
2/28 第7回オンラインシンポジウム パーソナル認知症カフェについて
3/28 第8回オンラインシンポジウム

iii) 調査活動と調査結果の共有

地域	内 容
八木町	ゴミ出し調査で表出したご家庭を訪問し、結果を共有する。 情報共有：たすけあい会議、ふれあいネットワーク会議
知井地区	民生委員・ふれあい委員及び福祉協役員会による高齢者の見守り訪問活動を実施。訪問結果等を基に、見守り対象者リストを再編成して、民生委員・ふれあい委員と共有する。
平屋地区	大谷大学との交流事業による、移動支援に関する住民への聞き取り調査。
鶴ヶ岡地区	大谷大学の移動支援に関する聞き取り調査を鶴ヶ岡振興会でも行った。調査内容が大学の論文として発表された。
日吉町	ミニデイ休止中、利用者に電話による生活状況の聞き取り調査を行った。

(2) 支え合いサービスに関する調査・研究、協議

- ・京丹波町社協 住民寄り添い型助け合い活動「かがやき」について研修 9/14

(3) 地域への働きかけと生活支援サービスの創出

地域	内 容
天引区	・「便利屋さん」（日常生活困りごとと助け合いサービス）が立ち上がっている。
木崎町区	・「ちょいっと支援」を4月から開始。
平屋地区	・令和3年度から住民同士の生活支援サービス「てんごりさん」事業を開始すべく検討中。
八木町本郷東区	・地域おたすけ隊“たすかる”有志により試行開始。

④ 地域における移動・外出支援活動の創出【重点】

区や地区組織による「お出かけツアー」などの試行的な取り組みに対し、公用車の貸出し等により支援を行った。こうした取り組みを安定的に継続できるように、制度の活用を含め、活動の発展の方策を検討した。

地域	内 容
天引区	・要望調査を行い希望者に「天引お買い物デー」として買い物移動支援を実施。
木崎町区	・7月から地区サロンへの送迎支援活動を実施。
八木町	・そよかぜ八木オープンカフェ開催時（月1回）、ボランティアによる移動支援実施。 ・送迎ボランティア「ハートで送ろう会」解散 ・送迎ボランティア「ゆいまーる」発足
平屋地区	・10月からお出かけツアー事業を再開。
宮島地区	・お出かけツアーと同日に元気アップ体操実施。

⑤ 協働ですすめる地域福祉の体制づくり

地区圏域（旧小学校区域や複数行政区からなるブロックなど）において、「交流の場・通いの場」や「支え合いサービス」、「移動・外出支援活動」などの地域福祉を推進する組織づくり・活動拠点づくりが進んでおり、地域把握のためのマップ作成や、地区福祉活動計画策定に向けた関係者の話し合いの場が動き出している。

(1) 地域福祉推進組織の立上げ支援、および継続支援

- ・地域福祉推進「モデル事業」・・・3地区
- ・地域福祉推進「継続・発展事業」・・・2地区

モデル指定地区・活動主体	モデル	実施内容
(1) [八木]南地区災害時避難者支援マップ作成会事務局	モデル 新規	<ul style="list-style-type: none"> ・4/20、5/11、6/10、7/20、8/3、8/20 事務局定例会 ・7/5 災害時避難者支援マップ作成会全体会 第1回 ・8/30 災害時避難所支援マップ作成会全体会 第2回 ・9/15 事務局会議開催 8/30 振り返り ・9/17 わが家の風水害時の行動目安の配布（南地区全戸） ・3/3 南地区の一時避難所に、非接触型体温計を配置
(2) [美山]鶴ヶ岡地区／鶴ヶ岡住み続けられる町づくり推進会議	モデル 3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・移送サービス事業の継続・充実 ・スマートフォンのアプリを活用した災害時の連絡体制の構築 ・鶴ヶ岡地区福祉活動計画の策定 ・高齢者見守り事業の実施（鮎のおすそ分け）
(3) [園部]摩気地区／特定非営利活動法人摩気高山の郷振興会	モデル 3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・「摩気地区住民福祉活動計画」策定に向け、振興会三役、民生児童委員とふれあい委員全員による検討会の開催（振興会による「摩気の夢を語る会」での将来ビジョンと関連性を持っている）

活動継続発展事業申請地区	発展	実施内容
(4) [美山]宮島地区／元気にすごせるまち宮島協議会	発展 1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段のない高齢者の支援としておでかけツアーの実施（美山町宮島地区内および園部方面）と元気アップ体操6～3月、計9回実施 ・民生児童委員とふれあい委員の交流会の実施 ・宮島地区福祉活動計画策定に向け役員会実施
(5) [日吉]佐々江・四ツ谷地区／住みよいむらづくり協議会	発展 2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・旧小学校を拠点に共助の基盤づくりを推進し、モデル指定3年目（H30年度末）に地区福祉活動計画「わたしたちの未来図」を策定。 ・居場所づくり、健康体操教室、五ヶ荘オープンデーへさらなる参加の呼びかけが課題（通信の発行、参加者の送迎、大学生との連携） ※今年度から健康体操教室の送迎時、利用者の見守りを行うなど機能の充実に努めておられる。

◆地域サポート人材学習会の開催

南丹地域サポートネットワークメンバー（まちづくりデザインセンター・集落支援員・社協各コーディネーター）でより良い支援関係を築いていくため学習会を行った。

- ・「第1回 地域サポート人材学習会」

日 時：9月8日（火）13時30分～16時30分
会 場：南丹市社会福祉協議会 本所 農事研修室
参加者：16名（まちづくりデザインセンター2名・集落支援員6名・社協コーディネーター8名）
内 容：サポート人材が実際にどの団体に関わっているのかの共有
架空団体の事例についての検討

・「第2回 地域サポート人材学習会」

日 時：12月15日（火）13時30分～15時30分
会 場：南丹市役所 日吉支所 3F 大ホール
参加者：南丹市まちづくりデザインセンター：3名、集落支援員：6名、地域振興課：1名、
南丹市社会福祉協議会：10名（計20名）
内 容：まちづくりデザインセンター・社会福祉協議会・集落支援員の業務を知ろう。

(2) 支え合いの地域づくりに向けた継続的な協議の場

◆地域別懇談会

コロナ禍の影響をふまえ例年の形での開催は中止し、今後の懇談会の進め方を検討する期間とした。
そのような中でも、八木町では企画小委員会での検討により感染予防対策を十分とることとして区
長、民生児童委員、ふれあい委員、消防団分団長の参加により10月に開催した。(※)
美山町では、大野、知井、宮島の各地区福祉推進団体が主催し、民生児童委員とふれあい委員の参
加による懇談会を開催し、地域の見守り活動について意見交換・情報共有を実施した。

(※) 八木町地域別懇談会（10/25(土)八木市民センター、10/31(日)八木東小体育館）

テーマ「区における防災のあり方を考える」により、地区ごとのグループディスカッションで、
気になっていることを語り合い、地域で取り組むこと・行政に相談したいことの整理をおこなった。

2月に、八木町地域別懇談会のアンケートを区長・民生児童委員・ふれあい委員対象に実施する。
回収率30%。防災以外にも、地域別懇談会で話し合いたい内容があることを、企画小委員会と事務
局で共有することができた。

◆地域たすけあい会議（第2層協議体）の開催

地区や区レベルでの地域福祉活動を支援するために、地域で取り組むことができる支援活動や支援
体制を具体的に進めるための方策について、また、関心のある人を増やし担い手を組織化するための
方策について各町域を単位に話し合う場として生活支援コーディネーターが中心となって実施した。
各町域での共通のテーマは通いの場づくりや移動支援活動、生活支援のしくみづくりに関すること
が主となり、情報共有や学習も重ねながら実施した。

園部地域たすけあい会議

開催日：7月28日（火）、9月29日（火）、11月25日（水）、2月10日（水）

内 容：木崎町区で開始された「ちょいっと支援」について情報共有。

天引区「お買い物デー」について情報共有。

地域住民主体の移動支援事業について制度及び法的関係について共有。

基本チェックリスト（厚生労働省作成）について

コロナ禍での住民活動について注意点事項や新たな活動を情報共有

日常生活総合事業の先進地事例から園部町に必要な事業を検討・意見交換。

南丹市が令和3年4月から実施する訪問型サービスD事業について内容共有。

訪問型サービスD事業実施団体の立ち上げを目指して園部町内でお買い物支援実証実験事業
の次年度実施に向けて調整。

八木地域たすけあい会議

開催日 9月30日（水）、11月12日（木）、（1月20日（水）コロナ緊急事態宣言発令中のため中止）
3月19日（金）

内 容：新しい総合事業と協議体、ゴミ出しの問題について、通いの場について、南丹市訪問型サ
ービスD事業について、「エール」「ゆいまーる」立ち上げについて、南丹市他町の地域情報について、
八木地域たすけあい会議の広報について

日吉地域たすけあい会議

開催日：11月16日（月）

内 容：各地区の取組み、振り返り、地域の状況等、意見交換

※2月に南丹市営バス・京丹波町営バス等の試乗を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の為、中止とした。

美山地域たすけあい会議

開催日：令和3年3月4日（木）

内 容：美山まちづくり委員会との共催。ミニデいの代替え事業について。各地区の取組み

◆南丹たすけあい会議（南丹市第1層協議会）の発足

市内で活動する各種団体等が参画する定期的な情報共有・連携強化の場として市が設置をし、第2層協議体をサポートするとともに、多様な主体間の連携・協働による体制整備を目的とし、10月30日に第1回会議が開催された。

会議参加の委員：民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、福祉シルバー人材センター、社会福祉協議会、女性会、身体障害者福祉会、市福祉相談課、（事務局・市高齢福祉課）

会議内容： 地域による助け合い・支え合い活動の推進について…各4町（第2層圏域）の取組み、旧小学校区域の地域活動推進団体（第3層圏域）の取組みの情報共有と意見交換

(3) 地域福祉活動の財源づくり

◆南丹市共同募金委員会「運営委員会」

	月日	内 容
第1回	5月29日（金） 文書決議	会長・副会長の選任、H29～R1南丹市共同募金推進計画の進捗報告、R1事業及び会計決算の報告、R2～R4南丹市共同募金推進計画の提案・承認、R2事業計画及び収支予算の提案・承認
第2回	8月25日（火）	副会長の選任、R2募金運動の提案・承認、歳末たすけあい募金助成事業の提案・承認
第3回	3月25日（木）	R2助成（一般・歳末）中間報告、R2募金中間報告

◆南丹市共同募金委員会「審査委員会」

	月日	内 容
第1回	8月25日（火）	じぶんの町を良くする活動助成（一次募集分）の審査、 当事者団体活動助成（公募分）の審査
第2回	11月18日（水）	じぶんの町を良くする活動助成（二次募集分）の審査、（一件、12月24日に書類審査）

◆助成実績

助成事業名		件数	助成金額
赤い羽根募金 （一般募金） 助成分	じぶんの町を良くする活動助成（一次募集）	8件	608,090円
	じぶんの町を良くする活動助成（二次募集）	4件	182,600円
	当事者団体活動助成（公募）	1件	300,000円
	当事者団体活動助成（指定）	7件	355,634円
	ボランティアグループ活動一般助成	45件	432,037円
	ボランティアグループ活動特別助成	17件	424,389円
	サロン活動助成	946人	141,900円
	サロン活動等貸出物品整備助成事業	1件	48,360円
	生活困窮者支援助成	1件	78,782円
募金助成分 歳末たすけあい	激励金助成（個人）	435人	2,175,000円
	施設激励金助成	20件	200,000円
	サロン活動助成（歳末）	628人	219,800円
	歳末たすけあい見守り訪問事業	3,550人	200,858円

◆「赤い羽根共同募金運動」、「歳末たすけあい運動」

- ・募 金 期 間：10月1日～12月31日
- ・目 安 額：赤い羽根募金(一般募金) 500 円/世帯、歳末たすけあい募金 500 円/世帯
- ・街 頭 啓 発：南丹市共同募金委員会 市内 8 か所で感染症対策をとりながら実施 (10/1)
- ・募金箱設置：市内 79 か所に依頼し、75 か所に設置
- ・法人募金：市内 47 事業所に依頼のうち、18 事業所より募金
- ・職域募金：市内 12 小中学校、南丹市役所役職員、南丹市社会福祉協議会役職員、南丹警察、園部老人クラブ連合会、八木老人クラブ連合会、日吉老人クラブ連合会、美山老人クラブ連合会
- ・学校募金：市内 1 高等学校
- ・その他、イベント募金、個人募金など

赤い羽根募金(一般募金) 額 4,534,321 円 (3 月末現在) (R 元年度 4,606,765 円)

歳末たすけあい募金額 3,364,400 円 (R 元年度 3,805,007 円)

⑥ 地域防災力の強化【重点】

市域全体を対象にした地域防災講座は開催を見送ったが、区や団体、学校の計画による防災研修への協力を行った。

地域の自主防災組織の交流研修を園部町で初めて企画し、市の出席を得て、行政の防災情報や自主防災組織の取組み事例をともに学習した。

市行政、府保健所の助言も得ながら感染症予防を考慮した防災の取組みや災害ボランティアセンター設置運営の検討や啓発を行った。

◆八木町南地区 災害時避難者支援マップ作成会議 ※モデル事業の項を参照。

- ・総合防災避難訓練は中止。避難のタイムラインを各家庭で考える。

◆八木町室河原区 防災マップづくり ※ミラたね事業の項を参照。

◆南丹ブロック社協(亀岡市、南丹市、京丹波町) 災害ボランティアセンター合同訓練

開催日：9月26日(土)：京丹波町わち夢広場[屋内多目的広場]

内 容：従来の災害ボランティアセンター運営を感染症対策の取れたセンター運営に参加者全員で修正していく訓練。

◆南丹市災害ボランティアセンター開設・運用訓練 ※緊急事態宣言発令のため、開催を中止

◆南丹市女性会防災講座(八木会場：11/21、美山会場：11/28) 両日合計 50 名参加

災害が発生した時、備えあれば憂いなしと女性の気づきを大切にした防災を考える研修会を計画。講演「一人ひとりが取り組む防災～わたしと大切な人を守るためにできること～」とグループワークを実施。

◆園部中学校 1 年生への防災教育

開催日：(1 日目) 令和 3 年 1 月 29 日、(2 日目) 2 月 4 日

生徒数：135 名

内 容：(1 日目) クロスロード「災害発生！あなたならどうする？」

(2 日目) 講演会「園部町横田区防災委員長 松本氏」・「南丹市教育委員会 平井氏」・「南丹市社協 榎原事務局長」

ワークショップ「災害時だけではなく 普段の生活から、園部に住む中学生の私たちに何ができるのか」

◆園部町内自主防災組織研修交流会

開催日：8月21日(金)：国際交流会館) 23 名+行政、社協の参加

内 容：・南丹市危機管理対策室から「災害対応について」、南丹市福祉相談課から「災害時の要配慮者

支援について、自主防災組織からの活動報告（大西区自主防災会、横田区防災委員会、木崎町区自主防災会）

- ・園部町内の9つの自主防災組織と各振興会の参加のもと各組織から実際の活動時の話しや地域住民に対する啓発方法などについて情報を共有した。

◆防災講座開催支援（日吉町 みんなの居場所わっかっか！）

開催日：3月28日（日）

講師：アウトドア防災ガイド あんどうりす氏

支援内容：チラシ作成・オンライン講座のための機材セッティング

⑦ 福祉教育、人権啓発の推進

昨年実施した学校では継続して福祉学習を実施できた。社協職員が講師となって福祉や地域の基本的事項への親しみやすさを持ってもらえることができている。他の地域や学校でも進めていけるよう、学校に向けたアピールも必要である。

また、音訳ボランティア活動のサポートを通じて、視覚障がい者への情報伝達を支援した。

◆小学校等における福祉体験学習

殿田小学校4年生	6/26（金）高齢者疑似体験、7/3（金）ユニバーサルデザイン・車いす体験
北桑田高校美山分校	7/7（火）上平屋サロンとの交流
園部小学校4年生	10/20（火）「福祉ってなんだろう」「ユニバーサルデザインについて考える」 10/27（火）園部小学校4年生「車いす体験」「グループディスカッション」 11/27（金）「手話体験」→聴言センターに依頼
殿田小学校4年生	11/5（木）「手話体験」→聴言センターに依頼
八木東小学校4年生	1/18（月）「福祉ってなんだろう」「絵を見て考えよう」（事前学習） 1/26（火）「車椅子体験」宿題あり（事後学習として）
美山小学校4年生	11/26（木）「車いす体験」「ユニバーサルデザイン」

◆認知症サポーター養成講座

園部町内でも認知症の方が徘徊される事例が数件報告され地域住民から認知症について学ぶ機会を得たいとの要望を受け、認知症サポーター養成講座を木崎町区、府営団地にて開催。また、他の地域でも開催について検討していただくようブロック会議にてお願いをした。

◆認知症声かけ訓練（日吉）

認知症の方を地域で支える取組みとして、ふれあい・いきいきサロンと包括支援センターが共催で計画。企画会議から参加し、地域であんしん手帳（仮）を作成してはどうかと提案した。

(2) ユニバーサルデザインにもとづく事業活動の推進、理念の普及啓発

◆「音訳ボランティア（4町）」活動支援

- ・各種広報物の音訳 リスナー登録：10人

◆「南丹市音訳ボランティアと南丹市役所広報発行元との意見交換会」

日 時：8月20日（木）13：30～15：00 会 場：南丹市社協 本所 農事研修室にて

参加者：南丹市4町音訳ボランティアグループ（かわせみ、やまびこの会、せせらぎ、こだまグループ）、南丹市議会・議会事務局、市秘書広報課、南丹市社協 地域福祉課

内 容：広報なんたん、お知らせなんたん、なんたん市議会だより「かけはし」の発行（事務局）を担当されている職員の方と、音訳ボランティア活動者との顔合わせ及び意見交換

◆「令和2年度音訳ボランティアレベルアップ講座」の開催

【八木会場】12月2日（水）10：00～12：00 場所：八木市民センター 3階 防災ルーム

参加者：かわせみ、やまびこの会より 13名

【美山会場】12月11日（金）13：30～15：30 場所：美山文化ホール 会議室1

参加者：せせらぎ、こだまグループより 10名

内 容：講師に「音訳指導者 安田知博 氏」を招き、①より聞き取りやすい話し方、②写真や表の伝え方、③マンガやイラストなどの伝え方などについて学ぶ。

⑧ 地域福祉活動・ボランティア活動への住民参加の促進

コロナ禍の影響から、ボランティア交流会やボランティア体験、など大勢の集まりの下で行う活動は見送った。各ボランティアグループは活動を控えたり依頼がなかったりというグループもあったが、予防対策を工夫しながら活動をしているところもあり、広報紙や「それぞれの一歩」冊子で活動事例の発信を行いそれに対するアンケートも実施した。

また、若手世代のボランティア活動者の参加による座談会を実施して情報発信の工夫の必要性の意見をもとにボランティア情報の掲示板立ち上げを進めている。

(1) ボランティアコーディネート機能の充実

◆ボランティア登録者数（保険加入者）

園部町	八木町	日吉町	美山町	その他（市外等）	合計
232 名	293 名	213 名	279 名	88 名	1105 名
(R1)310	314	234	293	91	1,242

◆ボランティアグループ登録数

園部町	八木町	日吉町	美山町	その他（市外等）	合計
22	14	26	28	2	92
(R1)25	13	32	26		96

◆ボランティア団体への活動助成（ボランティア基金の運用益の活用）

ボランティアグループ活動助成	10,000 円×40 グループ、9,279 円×1 グループ、6,834 円×1 グループ、6,372 円×1 グループ、5,000 円×1 グループ、4,550 円×1 グループ
ボランティア連絡協議会活動助成	130,000 円×2 町ボラ連、100,000 円×1 町ボラ連 50,000 円×1 町ボラ連
ボランティアグループ活動特別助成	17 グループへ計 424,389 円

(2) 地域福祉・ボランティア活動実践者の交流促進

◆「パソコン初級講座 2020」（南丹市まちづくりデザインセンターと共催）

日 時：全 6 回（9/1～10/20）各回 10：00～11：30 南丹市国際交流会館 3 階 研修室

参加者：10 名（申し込み：14 名）

内 容：社会貢献活動に関わる団体構成員及び個人が Word や Excel 等の使い方を学び、受講者の書類制作やチラシづくり、会計等の能力を向上させることを目的に開催した。また長期目標として、受講者がグループ化し、パソコン講座を主催していくことも目指した。

◆夏のボランティア体験（園部町）・・・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

◆第 14 回南丹市ボランティア交流会・・・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

◆「ボランティアミーティング」

日 時：11 月 11 日（水）13：30～14：50 場所：南丹市社会福祉協議会 本所 農事研修室

内 容：各町ボランティア連絡協議会 会長 4 名、若手ボランティア 4 名による座談会

参 加：16 名（社協職員も含む）

◆「各町ボランティア連絡協議会」事務局

・園部町ボランティア連絡協議会

6/18 役員会（令和元年度会計報告・令和2年度活動計画決議）、10/29、12/9、1/15、3/10

1/31(延期)→3/21 研修発表会 会場：南丹市国際交流会館

内容：会員による発表・活動紹介・展示等

対象：園部町ボランティア連絡協議会の会員 70 名参加

・八木町ボランティア連絡協議会

5/7 令和元年度会計報告・令和2年度年間行事計画(書面決議にて実施)

役員定例会の中止。グラウンドゴルフを楽しむ集いの実施(予定)→11/20(金)雨天のため中止

2/25(木)四役会、3/29(月)定例会開催 会計報告、各ボランティアグループの活動状況や思い等
情報共有、次年度の八木町ボランティア連絡協議会定例会の在り方について、解散ボランティア団体
2団体、新規立ち上げボランティア団体の報告、南丹市訪問型サービスD事業の説明、他町の情報共等

・日吉町ボランティア連絡協議会

5/19 役員会(※文書会議)、5/15 会計監査、5/29 総会 ※文書審議、6/1 三役会、10/6 役員会、
11/4 役員会、1/28→延期、3/8役員会

・各種団体への体温計の貸し出し

・11/28日吉町ボランティア講演会 講師：栗木剛氏 会場：遊youひよし 参加者：34名

・2/13 研修会(令和2年度防災人養成講座) 参加者：8名

・広報誌「笑顔の輪・わ 2号」11/13発行

・美山町ボランティア連絡協議会

H31(R1)総会は文書決議、8/28広報53号、3月に発足20周年記念誌が完成し、町内全戸配布。通年(Facebook)
での情報発信。予定していた20周年記念事業は、規模を縮小して行う。座談会の実施、冊子作成Youtube
で所属グループの活動を紹介する。バザー品やボラ連の備品を置いていた美山基幹集落センターが閉館
したため、物品を移動させた。

◆各種団体・サークル・当事者組織・ふくしまつり等の支援

＜園部事務所＞

・敬老会ボランティア需給調整 計4件

・視覚障害者送迎支援 計10回 利用者のべ33人

(ほか〈4/9、6/2、7/9、12/17〉は調整後、依頼者より中止の連絡があり中止。)

＜八木事務所＞

・「難聴者の会」事務局

4/20「難聴者の会」令和2年度総会(書面決議にて実施)

7/17 暑中見舞いはがき送付(14名)

※コロナ禍のため行事を中止。今後もコロナ禍の可能性がある中、会員の様子を知る方法を考える。

12/20 クリスマスプレゼントと手書きのカード送付

2/10 バレンタインプレゼントと手書きのカード送付

＜美山事務所＞

・「第12回美山福祉のつどい実行委員会」事務局(令和2年度は中止)

・「美山ふるさと祭り実行委員会」(令和2年度は中止)

⑨ 事業所等における地域貢献事業の推進

南丹市内の社会福祉法人(12法人)による懇談会はコロナの影響により未開催。各町において事業
所と協働で地域への働きかけを実施することができ、今後もその関係を継続したい。

◆京都府さわやかボランティアロード事業(アイリス福祉会、シミズふないの里、社協八木事務所)

令和2年8月26日(水)16:30~17:30 八木町 国道477号線(府道25号線交差点~住吉大橋)にて。

◆地域貢献活動のコーディネート(日吉事務所)

・8/28 地域の高齢男性より敷地の草刈りについて相談 ⇒あした一工房に依頼、対応いただく。

・9/17 はぎの里と懇談

・9/末 まちカフェモーニングの会より公用車の貸し出し依頼

⇒10月は社協公用車を貸し出し、はぎの里と調整の上11月から月1回送迎をしていただくことに。

⑩ 第3期 地域福祉計画・地域福祉活動計画の周知、活動の推進

企画小委員会や地域たすけあい会議、ふれあい委員研修の場で、地域の協働の場づくりを伝えるた
めに計画書を配布し説明を行った。5か年計画の3年目にあたり、計画の進捗状況の点検や第4期計画
策定に向けた打合せを市とともに進めた。

- ・第1回 南丹市地域福祉計画推進委員会（R2年7月31日）R元年度（計画2年目）進捗報告について
- ・第2回 同委員会 R2年度（計画3年目）進捗報告、第4期計画策定（R4年度末）に向けて

⑪ 広報活動の充実

コロナ禍における生活上の様々な困りごとに対する支援施策等を広報紙のほかにもホームページや市の広報などを通じて発信をした。今後も幅広い世代に地域福祉活動や社協事業等を伝えられるように、ホームページの更新やSNSによる情報発信を試行的に行った。

◆なんたん社協だより

- ・高齢者等の暮らしの困りごと調査結果や感染予防に留意し取組む各地の活動を紹介し、コロナに負けないというメッセージを発信した。

号(発行日)	主な内容
第45号 (7月24日)	これからもささえあおう マスク寄付のお礼、今こそ対策！防災と感染症予防 令和元年度事業報告、決算報告、令和2年度役員・委員等紹介 他
第46号 (9月25日)	ニャンたんが行く！あなたのまちのふれあい・いきいきサロン～新しい地域のつ ながり方～ 緊急アンケート調査！～外出自粛期間中の地域の方々の様子～ 他
第47号 (1月8日)	今こそ、ボランティア（ボランティア意見交換会、収集ボランティア、園部高校 の取り組み、美山中学校の取り組み）、新年のご挨拶、それぞれの一歩発行
第48号 (3月19日)	みんなで一歩プロジェクト～元気に春を迎えよう～、「ちょいっと支援」誕生物 語、2020 赤い羽根共同募金運動報告、ケアメン倶楽部

◆園部事務所だより「そのべお写真だより」

- ・園部地域における様々な事業や行事、活動について写真を中心にまとめて紹介し、住民のみなさまに見える化することを目指している。

◆日吉事務所だより「hanaso」

- ・福祉についての情報を伝える機会を増やし、新たな人々へのアプローチや担い手の発掘、福祉のまちづくりにつなげることを目指して発行している。2ヶ月に1回、日吉町内全戸配布。

◆美山事務所 「みんなのまちの活動紹介」

- ・「あんしん・あんぜん情報」の裏面を活用し、地域での出来事やサロン活動の様子、社協からのお知らせなどを掲載している。

◆みんなで一歩プロジェクト公式ラインアカウント

- ・公式ラインアカウントを開設し、みんなで一歩プロジェクトの進捗状況などについて情報発信を行った。

2. 地域の暮らしを支える各種事業

① 介護予防・生活支援事業 （※南丹市委託事業）

各事業とも、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を徹底し、事業を実施した。食の自立支援サービス事業は大幅に配食数が増加した。外出支援サービス事業は緊急事態宣言が出された時期に、若干利用控えが見られた。生きがい活動支援通所事業は感染症対策をとりながら実施したが、4月、5月および2月は感染症拡大防止のため全地域で休止した。

(1) 食の自立支援サービス事業

◆利用実績（3月末現在）

	園 部	八 木	日 吉	美 山	合 計
利用登録者数	38 人	59 人	47 人	68 人	212 人
延べ配食数	7,227 食	14,295 食	9,545 食	9,613 食	47,907 食
備 考	夕食	昼食、夕食 (特別食あり)	夕食 (特別食あり)	昼食、夕食 (特別食あり)	※昨年同時期 182 人 32,906 食

(2) 外出支援サービス事業

◆利用実績（3月末現在）

	園 部	八 木	日 吉	美 山	合 計
利用登録者数	237 人	117 人	175 人	153 人	682 人
延べ利用件数	2,410 件	1,290 件	2,622 件	820 件	7,142 件
延べ運行距離	61,256 km	41,960 km	127,085 km	88,361 km	318,662 km

※昨年同時期実績（合計641人、9,809件、419,327km）

◆交通空白地有償運送運転協力者講習会

9月28日（木）

2人（対象：日吉事務所職員）

(3) 生きがい活動支援通所事業

◆利用実績（3月末現在）

	園部	八木	日吉	美山	合 計
利用登録者数	※受託なし	11 人	42 人	67 人	120 人
延べ利用人数		423 人	467 人	485 人	1,375 人
開 催 箇 所		3 ヶ所	5 ヶ所	5 ヶ所	13 か所

※昨年同時期実績（合計 登録 132 人、のべ 2,904 人、13 か所）

◆開催状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
八木・日吉	休止	休止	回数減で再開	通常開催	通常開催	通常開催
美山	休止	休止	回数減で再開	1～2 回実施	休止	通常開催
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
八木・日吉・美山	通常開催	通常開催	通常開催	回数減	休止	回数減で再開

(4) 各事業のあり方検討

◆生きがい活動支援通所事業に係る打合せ会議

八木、日吉、美山において、スタッフ会議（事業終了に関する市からの説明）の実施、ならびに開催会場で利用者に対し事業終了に関する市からの説明の実施

② 福祉サービス利用援助事業（※京都府社協委託事業）

新型コロナウイルス感染症対策に努めながら、支援を休止することなく、継続的に実施した。内部監査を2回実施し、適正な事業運営状況を確認した。

(1) 適正な事業運営

◆内部監査の実施 年 2 回

上半期内部監査 令和 2 年 9 月 24 日～10 月 5 日（※改善事項再確認 令和 2 年 11 月実施）

下半期内部監査 令和 3 年 2 月 26 日～3 月 11 日（※改善事項再確認 令和 3 年 3 月実施）

◆支援件数状況 令和 3 年 3 月末現在）

事務所	支援件数					内、生活保護 受給世帯
	内 訳				合計	
	認知症高齢者等	知的障がい者等	精神障がい者等	その他		
園 部	4	14	12	8	38	18
八 木	6	4	2	3	15	4
日 吉	2	6	4	1	13	6
美 山	5	7	2	0	14	2
合 計	17	31	20	12	80	30

(2) 担当者の資質向上

新型コロナウイルス感染症の影響で各種研修会への参加や独自研修会の企画自体も困難な状況であったが、基本的な支援・対応方法の見直しや、より高い専門性獲得のためリモート研修等研鑽の工夫を行った。

(3) ◆各種研修

研修・会議	開催日	参加人数
専門員新任研修（府社協） 1 回目	7月10日（金）	2人
専門員新任研修（府社協） 2 回目	7月22日（水）	2人
第1回専門員・権利擁護担当職員会議（府社協）	中止（※）	
第2回専門員・権利擁護担当職員会議（府社協） zoom会議	令和3年3月29日	7人
生活支援員新任研修（府社協）〔南部〕	中止（※）	
南丹ブロック現任生活支援員研修〔R2幹事社協：南丹社協〕	研鑽資料配布	
生活支援員研修交流会（市社協）	中止（※）	

(※) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

③ 福祉資金（生活福祉資金・くらしの資金）貸付事業（※京都府社協委託事業、南丹市委託事業）

新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業等により、生活資金を必要とする世帯への特例貸付を行った。3月末現在で貸付件数のべ 399 件、貸付金額 150,500,000 円にのぼった。

感染症が収束しない中、貸付を必要とする人からの相談が後を絶たない状況が続いており、引き続き、関係機関とも連携しながらの支援が必要である。

◆生活福祉資金 特例貸付（新型コロナウイルス感染症対策）

「特例緊急小口資金」

対象世帯：新型コロナウイルスの影響を受け、休業等により収入の減少があり、緊急かつ一時的な生計の維持のための貸付を必要とする世帯

貸付上限額：一世帯あたり 10 万円以内（特に必要と認められる場合は 20 万円以内）

「特例総合支援資金」

対象世帯：新型コロナウイルスの影響を受け、失業や収入の減少等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯

貸付上限額：（2人以上）月 20 万円以内、（単身）月 15 万円以内

貸付期間：原則 3 ヶ月以内 ※1 回のみ（3 か月以内）延長申請可

「特例総合支援資金（再貸付）」

対象世帯：新型コロナウイルスの影響を受け、失業や収入の減少等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯

貸付上限額：（2人以上）月 20 万円以内、（単身）月 15 万円以内

貸付期間：原則 3 ヶ月以内 ※1 回のみ（3 か月以内）

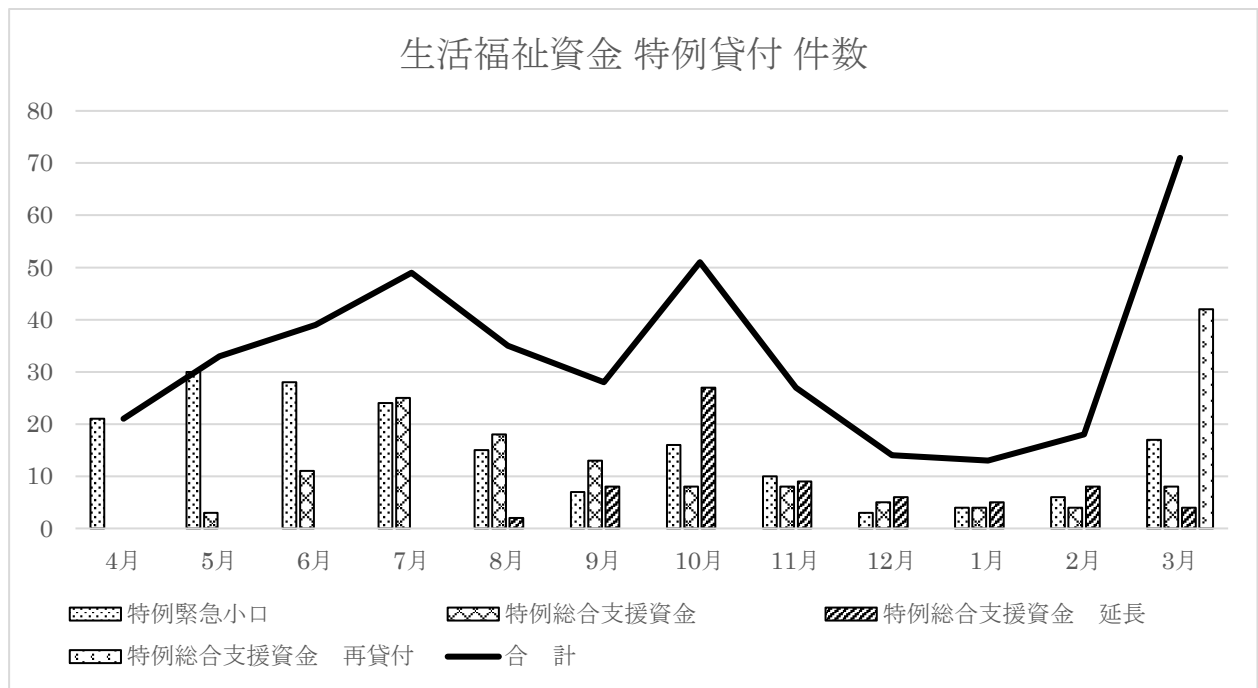
・貸付金額（3月末現在） 単位：円

資金種類	貸付金額
特例緊急小口資金	35,600,000
特例総合支援資金	56,400,000
特例総合支援資金（延長）	36,300,000
特例総合支援資金（再貸付）	22,200,000
計	150,500,000

・貸付件数（4～3月） ※（ ）内は相談件数

	緊急小口	総合支援	総合延長	再貸付	計
4月	21(84)	0(0)	0(0)	0(0)	21(84)
5月	30(47)	3(14)	0(0)	0(0)	33(61)
6月	28(45)	11(25)	0(0)	0(0)	39(70)
7月	24(38)	25(40)	0(8)	0(0)	49(86)
8月	15(12)	18(16)	2(8)	0(0)	35(36)

9 月	7 (17)	13 (20)	8 (38)	0 (0)	28 (75)
10 月	16 (27)	8 (11)	27 (36)	0 (0)	51 (74)
11 月	10 (11)	8 (8)	9 (8)	0 (0)	27 (27)
12 月	3 (6)	5 (14)	6 (10)	0 (0)	14 (30)
1 月	4 (14)	4 (6)	5 (16)	0 (0)	13 (36)
2 月	6 (27)	4 (6)	8 (10)	0 (37)	18 (80)
3 月	17 (25)	8 (36)	4 (10)	42 (39)	71 (110)
合計	181 (353)	107 (196)	69 (144)	42 (76)	399 (769)



◆生活福祉資金（通常貸付）

・町別相談件数内訳（4月～3月末）

	園部町	八木町	日吉町	美山町	その他	不明	合計
延べ人数	11	7	11	0	9	0	38
実人数	7	5	9	0	5	0	26

・種類別相談・問合せ件数 内訳（4月～3月末） ※重複あり

	総合支援資金			教育支援資金		金 不動産担保型生活資金	緊急小口資金	臨時特例つなぎ	福祉費	不明や非該当	制度について	その他	合計
	生活支援費	住宅入居費	一時生活再建費	教育支援費	就学支援費								
相談/問合せ	4	0	0	7	9	0	4	0	12	0	1	1	38
貸付	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	5

・相談件数 38 件のうち、8 件は新規貸付相談、30 件は償還等に関する相談である。

◆くらしの資金（南丹市委託事業）

・貸付件数

※（ ）内は相談件数

	園部	八木	日吉	美山	合計
夏 期	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (2)
冬 期	0 (0)	0 (1)	0 (3)	0 (0)	0 (4)

◆くらしの資金特例貸付（南丹市委託事業）※貸付金額はくらしの資金と同じく 10 万円上限

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に関連する生活困窮学生に対して、南丹市内にある専門学校や大学校へ相談窓口の広報周知を行った。（明治国際医療大学、二小松学院、京都医療科学大学、公立南丹介護専門学校）
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う経済活動への影響を受けて収入が減収した方を救済することを目的に、受付期間を限定したうえで、資金の特例貸付を行った。（申請期間：R2 年 4 月 1 日～R3 年 6 月末まで）
- ・特例くらしの資金 貸付件数

	園部	八木	日吉	美山	合計
件数	2	1	0	0	3

④ 生活困窮者自立相談支援事業、家計改善支援事業（※南丹市委託事業）

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な業種や職種の方たちが失業若しくは減収となり、特例貸付の借入希望者が溢れた。また、借入に伴う自立相談支援機関へ相談が必須になっていることから、自立相談支援事業へ相談件数が激増した。貸付希望者も含め相談受付件数が 180 件と、前年度の年間相談件数 55 件を大きく上回る件数になった。

特例貸付は生活資金需要者に速やかに生活費を届ける目的で、申請手続きが大幅に簡素化されているが、償還に関して計画性や具体性が乏しいケースが多く見られ、償還開始時期に償還不能や返済によるさらなる生活困窮の懸念が大きい。解雇や離職、住居を喪失された方も多く、命や明日の生活を守るための緊急的な支援が必要なケースも増えており、相談員の負担も大きくなった。コロナの影響によって解雇者や離職者、住居喪失者が多数おられるが、事態を打開するための求職活動自体が、コロナの影響でなかなかうまくいかない相談者が多く、支援も難航している。

自立相談支援事業にかかる啓発活動や出張相談、たんけんたい、相談拡大ツールの導入など年度当初予定していた計画は大幅に変更、もしくは中止とした。

◆相談受付件数（3 月末現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
新規相談受付件数（総数）		11	12	10	8	12	16	25	13	14	16	5	38	180	55
プラン作成件数（総数）		7	4	8	6	11	18	25	14	13	11	9	37	163	47
法に基づく事業件数	住居確保給付金	0	1	4	2	2	2	1	0	0	1	2	0	15	1
	一時生活支援事業	3	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	7	0
	家計改善支援事業	1	2	2	1	1	1	0	0	1	2	1	2	14	18
	自立相談支援事業による就労支援	0	1	0	2	0	1	1	0	0	0	0	2	7	8
	福祉資金による貸付	0	1	5	3	7	17	24	13	12	7	5	32	126	0

・町別内訳

園部町	八木町	日吉町	美山町	その他	不明	合計
109	27	31	12	1	0	180

・年代別内訳

～10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60～64	65～	不明	合計
0	13	21	49	40	20	36	1	180

・相談内容内訳（重複あり）

病気や健康、障害	家賃やローン支払い	仕事探し、就職	家族との関係	ひきこもり、不登校	住まい	税金・公共料金支払い	食べ物がない	仕事上のトラブル	地域との関係性	DV・虐待	収入・生活費	債務	子育て	介護	その他
44	51	34	9	3	22	44	11	6	3	0	145	26	7	12	6

- ・3 月末での自立相談支援事業支援継続者は 133 名。うち、家計改善支援事業利用の併用者 10 名。

◆支援調整会議の開催

- ・計 49 回開催

通常開催 12 回

4/21、5/22、6/23、7/21、8/25、9/28、10/27、11/26、12/22、1/27、2/25、3/19

特例貸付のための臨時支援調整会議 30 回

8/11、8/24、8/31①、9/7、9/14、9/23、9/28、10/5、10/12、10/19、10/26、11/2、11/9、11/17、11/24、
12/7、12/14、12/21、1/4、1/14、1/18、1/25、2/1、2/8、2/15、2/22、3/1、3/8、3/15、3/22

一時生活支援事業の利用を目的とした臨時支援調整会議 7 回

4/3、4/20、6/8、8/31②、6/8、2/4、3/15

◆専門職との連携

- ・法的解決支援プログラム（京都司法書士会）相談案件数 16 件（昨年度 年間 18 件）
- ・生活困窮者支援機関向け専門電話相談（京都弁護士会）適用案件数：1 件（家賃の過払い）

◆赤い羽根共同募金 生活困窮者自立相談支援事業緊急時助成の活用

適用件数：5 件 計 78,782 円

◆南丹市社協フードパントリー／物品バンク等

- ・小規模フードパントリー

適用人数：延べ 72 件（米、飲料、缶詰、缶パン、乾麺、レトルト、調味料等を提供）
うち、4 件については困窮者支援に携わる団体・法人へ提供。

- ・小規模物品バンク

適用人数：延べ 9 人（布団、シーツ、髭剃り、肌着、タオル、洗剤、折り畳み傘等）

- ・家電製品貸与支援

適用人数：延べ 3 人（洗濯機 1 台 こたつ 1 台 電子レンジ 2 台 炊飯器 2 台）

◆京都セカンドハーベストとの連携

適用人数：2 件、情報交換会も開催（課題の抽出）

◆くらしの出張相談会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

◆生活困窮者自立相談支援事業研修会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。

◆たんけんたい（多様な職場等の見学・体験企画）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施を中止。

⑤ 法人後見事業

◆法人後見運営委員会の開催

上半期には新型コロナウイルス感染症の影響で委員を招集しての会議は開催できていないが、「南丹市社会福祉協議会の法人後見支援員とは」という説明文を作成するにあたって、委員への意見諮問を文書回議にて執り行った。

下半期には、委員を招集しての第 1 回目の会議を開催。

日時：12 月 15 日（火）午前 10：00～ 場所：南丹市社協 本所 農事研修室

◆法人後見支援員登録の呼びかけ（令和 3 年 3 月 31 日時点で、8 名の登録者）

日時：10 月 15 日（木）午後 1 時～ 場所：国際交流会館 2 階会議室

対象：南丹市市民後見人養成講座受講者

◆法人後見支援員研修会の開催

今年度の法人後見支援員研修会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予防する観点から、単独での開催はせず、南丹市権利擁護・成年後見センターが開催する市民後見人養成講座フォローアップ研修会に協力した。

◆南丹市権利擁護・成年後見センター 運営委員会への参画

第 1 回 日時：6 月 24 日（水）午前 10 時～ 場所：4 号庁舎 2 階会議室

第 2 回 日時：9 月 30 日（水）午後 2 時～ 場所：4 号庁舎 2 階会議室

包括支援の部

1. 南丹地域包括支援センター事業（南丹市委託事業）

(1) 総合相談

相談内容は、1年を通して新型コロナウイルスの影響を受けたと思われる相談が多かった。外出自粛による筋力低下、遠方に住む家族が訪問を控え定期的な見守り訪問の希望、収入減による生活苦が心配との相談が挙げられる。他には、生き通終了に伴う介護保険サービスへの移行や「最近姿を見ない」と様子を心配された地域からの相談、虐待には至らないまでも支援が必要なケースも何件もあり、民生委員やふれあい委員と同行訪問や会議の開催を行うことで支援方法を検討するなど解決に向けて対応した。

生活困窮や安否確認などセンターだけでは解決できない課題も多く、他機関・他職種との連携力を強化することで、多様な相談にも対応できる相談窓口としての役割が求められるようになってきている。

①新規相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
南 部		26	25	60	42	42	34	29	26	19	29	34	41	407
内 訳	園部	15	20	35	26	21	16	19	18	13	16	21	21	241
	八木	11	5	25	16	21	18	10	8	6	13	13	20	166
北 部		14	16	19	23	25	23	24	16	16	16	15	40	247
内 訳	日吉	8	7	13	14	12	13	17	3	10	10	7	31	145
	美山	6	9	6	9	13	10	7	13	6	6	8	9	102
その他		1		2		1			2					6
不明				1						2				3
合 計		41	41	82	65	68	57	53	44	37	45	49	81	663

②相談経路（重複あり）

相談経路	件数	割合	相談経路	件数	割合
本 人	60	8.6%	区長・区役員	0	0.0%
配偶者	41	5.8%	近隣住民	11	1.6%
子・子の配偶者	170	24.3%	サロン	0	0.0%
家族・親族	28	4.0%	老人クラブ	1	0.1%
ケアマネ	49	7.0%	ボランティア	0	0.0%
サービス事業所	19	2.7%	その他	40	5.7%
入所施設	6	0.9%	合 計	701	100.0%
医療機関	77	11.0%			
社協	60	8.6%			
学校	2	0.3%			
行政	73	10.4%			
ふれあい委員	3	0.4%			
民生児童委員	61	8.7%			

③相談内容（重複あり）

相談内容	件数	割合
制度・サービス	425	54.3%
虐待（疑い含む）	3	0.4%
認知症	61	7.8%
衣食住	24	3.1%
医療	20	2.6%
入退院	24	3.1%
施設入退所	18	2.3%
アルコール	2	0.3%
権利擁護	7	0.9%
状況確認	105	13.4%
出前講座依頼	4	0.5%
生活困窮	5	0.6%
その他	85	10.9%
合 計	783	100.0%

(2) 権利擁護

今年度の通報件数は9件であった。

虐待の起こる背景として、多重ケアや介護疲れの他、養護者側の性格や疾病・障害もあった。頼れる身内がおらず、介護の負担が一人に偏っていたり、要介護状態の夫婦に精神的・経済的に課題を抱えている子がいたりなど、家族で多重の課題を抱えていることなどが挙げられる。また、虐待を受ける側には認知症の方が多く、その対応に戸惑う養護者の姿もみえる。認知症介護を行っている養護者への支援が急務である。

コア会議、支援会議を開いて支援方法を関係者で検討しているが、養護者へ連絡が取れないなど、家族対応に困難を感じることも多かった。養護者を責めるのではなく、高齢者の権利を守るのと同時に養護者を支援していく姿勢を持ちつつ、解決への方法を養護者と一緒に考えていけるように今後も進めていきたい。

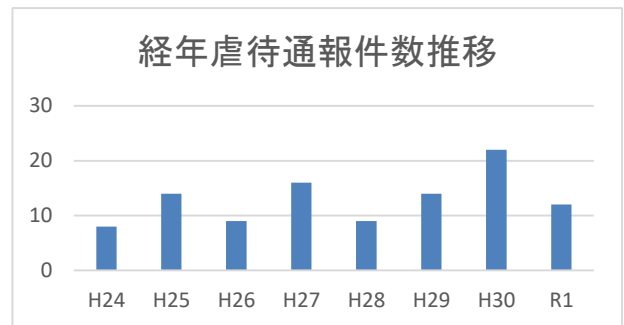
ア. 虐待通報件数（4～3月） 9件 虐待認定 7 件 （1件：コア会議なし）

イ. 相談者内訳

相談者	件数
民生児童委員	0
ケアマネ・サービス事業所	9
医療機関	0
行政・警察	0
家族・親族	0
本人	0
その他	0
合 計	9

ウ. 虐待種別(重複有)

種 類	件数
身体的虐待	3
心理的虐待	3
介護放棄	5
性的虐待	0
経済的虐待	2
疑い不適切な状況	1
合 計	14



エ. 被虐待者の内訳

性 別	人数	要介護度	人数
男 性	4	申請中	2
女 性	5	要支援1	0
合 計	9	要支援2	1
		要介護1	0
		要介護2	2
		要介護3	3
		要介護4	0
		要介護5	1
		認定なし	0
		合 計	9
年 代	人数	認知症有無	人数
64歳以下	0	あり	6
65～69歳	1	なし	0
70～74歳	1	不明	3
75～79歳	1	合 計	9
80～84歳	1		
85歳以上	5		
合 計	9		

オ. 養護者の内訳

性 別	人数	関係(続柄)	人数
男 性	4	夫	1
女 性	5	妻	1
合 計	9	息子	2
		娘	2
		息子の妻	1
		娘の夫	0
		孫	2
		その他	0
		合 計	9
年 代	人数	同居の有無	人数
30歳以下	0	同 居	9
31～40歳	3	別 居	0
41～50歳	1	合 計	9
51～60歳	1		
61～70歳	3		
71歳以上	1		
合 計	9		

カ. 対応 *以前からの継続ケース含む

会議	開催回数
虐待コア会議	8 回
支援調整会議	3 回
虐待評価会議	10 回

②成年後見

親族と縁が薄かったり、子世代が精神的な課題を抱えているなど、第三者の支援が必要なケースがあった。頼る相手がいないせいか、本人がまったくの他人（知人）を信頼し、金銭管理を任せているケースもある。こういった場合、知人が何かと世話を焼いてくれており、本人にとってなくてはならない存在になっている。そうなると、本人が知人との関係性がきれることを恐れ、金銭管理を専門家に任せることに抵抗を感じる人が多い。財産管理や身上監護だけではない、公的なサービスで賄えない部分をどう支えていくかということが課題であるといえる。

ア. 成年後見相談件数 (4～3月) 12 件

	事例概要	地域	主な対応、支援内容
1	親族より相談。お金のやりくりができておらず、生活に支障。借金があるらしいとの情報。同居息子はひきこもり。	日吉 (4月)	生活相談センターへ連携し、親族へ整理のアドバイスをしてもらい、最終、親族が金銭管理することになる。息子は入院を経て、施設入所となった。
2	知人より相談。認知症があり、金銭管理ができず、滞納が発生している。息子は遠方におり、日常的な支援は困難。	八木 (4月)	生活相談センターにつなぎ、福祉サービス利用援助事業を利用することになった
3	以前から福祉サービス利用援助事業を勧奨していたが、本人が信頼する知人が金銭管理していたケース。今回、脳出血により意思表示ができなくなる。今後の身の振り方や金銭管理に課題。	園部 (4月)	今回の病気をきっかけに、申し立ての動きへ。配偶者、子ともに死亡。きょうだいとは縁薄く支援受けられないため、市長申し立てが必要と判断、権利擁護・成年後見センターにつなぐ。
4	夫婦2人暮らし。認知症により判断力低下。子おらず、きょうだいと縁薄い。配偶者も認知症あり、本人の異変に気付かず、飢餓状態で救急搬送された。【No.5と夫婦】	園部 (4月)	この騒動をきっかけに、配偶者（No.5）の甥が登場。司法書士に相談。成年後見申し立て支援に入ろうとするが、申し立て前に逝去。
5	夫婦2人暮らし。認知症により判断力低下。子おらず、きょうだいと縁薄い。脳梗塞により、意識なくなる。【No.4と夫婦】	園部 (4月)	No.4の救急搬送をきっかけに、甥が登場。司法書士に相談。成年後見申し立てに動くつもりが、本人の意思を確認したい、意識が戻るかもしれない、と保留になる。
6	関わる支援者同士で、必要性を感じたケース。うつ状態。息子と2人暮らし。請求書がたまり、電話がとまるなど、支払いがうまくできない。息子の理解力などにも課題あり、日常的に金銭管理の支援ができる人がいない。	八木 (5月)	生活相談センターにつなぐ。福祉サービス利用援助事業利用を家族（別居）同席のもと提案したが、現在保留の状態。
7	関わる支援者同士で必要性を感じたケース。障がいサービス利用していたが、それだけでは対応しきれなくなり、介護保険申請。独居で、身内とも疎遠であり、支援してくれる人がいない。	園部 (5月)	障がいサービス関係者、介護保険の支援者が対応協議。
8	病院からの相談。ガン末期。身寄りがいない（家族と絶縁状態）。今後、入退院やサービス利用が必要となり、また最期を迎えた場合の対応など頼りにできる人がいない。	美山 (5月)	権利擁護・成年後見センターに相談。包括と成年後見センターで事前に情報共有し、成年後見センターでの会議で事例検討してもらう予定であったが、実際に動く前に逝去される。
9	ケアマネジャーより相談。精神疾患か、認知症か、不明。受診を拒否するが、救急車を頻繁に呼ぶ。金銭管理の詳細がわからない。支払いは現状できている。自由に動ける身体状況ではなく、身内と疎遠でもあるため、今後の身の振り方が課題。	八木 (6月)	親族が関わり始めてくれたことにより、成年後見制度の説明を行う。受診を拒否されるため診断書の作成が難しいこと等もあり、親族も積極的な介入ができない。長期的に検討することとなる。
10	ケアマネジャーより相談。精神疾患のある兄弟。兄が精神疾患の症状で周囲に迷惑をかけたり、体調不良で入退院繰り返し。自宅の環境も劣悪で今後施設入所等に向け保証人になれるものがない。	美山 (6月)	ケアマネ、高齢福祉課、権利擁護・成年後見センターと連携。現在、精神病院に入院中。 * 高齢福祉課経由の相談
11	義姉より相談。認知症高齢者。兄夫婦と同居。知人と一緒に金融機関に行き、預貯金から多額の金額をおろしている。おろしたお金はどこにあるか不明。金銭管理が出来ない。通帳や印鑑を知人に預けている。	園部 (10月)	権利擁護・成年後見センターに相談。センターから本人と義姉に話をし、本人も申し立てに同意。現在、申し立て中。通帳は再発行し、後見決定までをめぐりに金融機関貸金庫で保管している。
12	基幹相談センターからの相談。施設入所している障がいのある高齢者。保証人であった母が逝去。弟との関係薄い。	八木 (11月)	基幹相談センターから権利擁護・成年後見センターに相談。弟への意向確認必要。高齢者でもあり、今後を見据え、包括のかかわりも必要。

(3) 包括的・継続的マネジメント支援事業

今年度は、ケアマネ連絡会やサービス部会などは、緊急事態宣言もあり年度当初は集まっていた開催ができずに悩むことになったが、それぞれに「新型コロナウイルスに対応に関するアンケート」を実施し、集まれなくても情報共有する工夫をしていった。また、人数制限を設けたり、オンラインを活用したりして年度末には開催できるまでになった。特に、2月のケアマネ連絡会では、認知症当事者とその家族に講師をお願いし、地域で支えることや地域づくりについて考える良い機会となった。

ケアマネ支援では、ケアマネジャーが抱えている悩みに対して、ケアマネとしての役割や介護者への関わり方、医療についての必要な視点などを伝え、ケアマネジメントの助言などを行った。

① ケアマネ連絡会

	開催日	内容・講師	参加
第1回	5/15 (金)	新型コロナウイルスの影響にて、緊急事態宣言も出ており、開催を中止する。	名
第2回	8月	新型コロナウイルスの影響にて、開催は中止。その代替えとして、各事業所に「新型コロナウイルスに対応に関するアンケート」を実施する。	名
第3回	11/13 (金)	南丹市権利擁護・成年後見センター事業について 講師 福祉相談課 中西智子課長補佐 林高秀相談員 (各事業所1名に制限して開催)	19 名
第4回	2/18 (木)	認知とともに生きる～認知症の理解を深め、よりよい支援や地域づくりに繋げる～ 講師：南丹市在住認知症当事者・ご家族 (オンライン開催)	28 名

② ケアマネ事例検討会

	開催日	タイトル	事例提供者	参加
第1回		4/16延期⇒6/18延期⇒7/16延期⇒9月予定⇒今年度は中止を決定		名

③ その他 ケアマネ支援 (ケース支援など)

	事例概要	地域	主な対応、支援内容
1	元々理解が難しいご家族に、退院後のサービスについて説明をすることに不安があるケアマネの相談。	八木	退院カンファレンス前の事前打ち合わせに同席する。
2	数年前から隣人に対し物盗られ妄想を持っていたが、最近になって訴えがエスカレートし、地域住民の心配も増してくる。	日吉	離れて暮らす子供、地域の民生委員を交えて個別会議を調整。課題を共有し、ケアマネの役割を明確にした。
3	コア会議で虐待事実なし判定ケース。介護者の夫から妻への不適切な状況で、ケアプランの見直しを中心に介護者支援を必要とする。	八木	介護者を訪問し、家族会の紹介や、夫が抱える課題の助言を行う。ケアマネに対しては医療視点を伝え、家族支援の立場でサービス担当者会議に出席した。
4	担当利用者に褥瘡発生が続いていたこともあり、居宅管理者から、褥瘡リスクに対して理解してもらおう場をもちたいとの相談。	八木	褥瘡についての勉強会を開催をした。
5	認知症状が進行し、介護疲れが積み重なり突発的に家族が利用者を叩いてしまったケース。	八木	介護者を訪問し、介護負担の確認、関わり方の助言、制度活用の提案、担当ケアマネにはケアマネジメントの助言を行なった。
6	身寄りがなく独居、転倒によりADLが大きく低下。介護認定の結果、要介護2、その後、入院、区変により要介護5。遠方の病院への受診に強くこだわる。	園部	ケアマネとともに近隣の病院にかかるように説得、通院の同行を行う。自宅に同行して環境整備に協力する。主治医や関係者との連携、情報提供を行う。

④ なんとん通所サービス部会

	開催日	活動内容	参加
第1回	5/11 (火)	新型コロナウイルス感染症による業務への影響等によるアンケート実施 (研修会の代替として実施) 全20事業所より回答あり。結果と各事業所での取り組みを取りまとめ、各事業所へ配布。	
幹事会	7/7 (水)	幹事会を開催。 11月研修に向けて内容の協議。	4 人
第2回	8/5 (木)	災害時の対応についてのアンケートを実施 全20事業所から回答。 各事業所の防災対策や対応方法について取りまとめる。	
幹事会	8/26 (木)	幹事会を開催。 11月予定の研修会について、代替案の検討	4 人
第3回	11/11 (水)	災害時の対応についてのアンケート結果、園部消防署職員からのアドバイスをまとめたパワーポイントを配布 (CD-Rにて)	
幹事会	11/11 (水)	幹事会を開催 第44回なんとん通所サービス部会について内容の協議 オンライン環境についての確認アンケートの実施	4 人
研修	3/5 (金)	「介護現場の仕事をさらに楽しく！～介護現場の感情コントロール～」研修をZoomにて実施。当日は11事業所・22名の参加。 アンケート結果を取りまとめ。	22 人

⑤ 地域ケア推進会議

新型コロナウイルスの感染拡大により、大人数での開催はできないと判断し、今年度の地域ケア推進会議は見送ることとなった。その代わりにこの1年は、これまで開催した会議についてロジックモデルを用いて整理し直して、来年度以降の会議の計画づくりに取り組んだ。

「出前講座一覧表」では、作成がゴールになって作成後の活用方法まで具体的に計画段階から考えていなかったことに気がつくことができた。

「シニア世代の社会参加」では、実際に活動に繋がった事例はあったが、件数が少なく効果があったとはいい切れず、地域福祉部等の事業（ボランティア講座等）と連動させ計画的に開催できたら効果が得られると考えた。

振り返りを踏まえて、来年度以降のテーマを①シニア世代の社会参加をさらに発展させた「集いの場と介護予防」②新たに地域で取り組まれ始めている「移動手段と生活支援」に絞り、計画的に取り組めるようにロジックモデルを作成した。

来年度は、作成したロジックモデルを基本に、地域ケア個別会議で抽出された地域課題も含めるようなないようで開催していく。

※ロジックモデルとは、事業や組織が最終的に目指す変化・効果の実現に向けた道筋を体系的に図示したもの

⑥ 地域ケア個別会議

【令和2年度の開催】 会議数：45回（35ケース）

- ・コロナの影響もあり、特に後期の開催依頼数が減り、会議回数が昨年度の約半分だった。
- ・認知症によって生活課題がでてきたケースが多かった。具体的には、本人のサービス拒否による不衛生な状況、ものもらい妄想により近隣トラブル、自宅に戻って来れない事等。また、飼っていた動物の世話ができなくなる問題も複数みられた。
- ・民生委員やふれあい委員に出席いただく事で、具体的な地域の見守り体制の構築や認知症サポーター養成講座の開催、サロン利用にスムーズにつながった。
- ・家族にも課題があるケースが複数みられ、サービスだけでは解決できず、その隙間を関係者でフォローしていく協議を行った。
- ・評価会議等、虐待に関するケースをとりあげる事が多かった。

【今後について】

今年度は、会議からみえた地域課題をレベル別（行政・専門職・地域・住民）に分類する事ができた為、来年度はよりスムーズに地域ケア推進会議等へ繋げていける様、会議録の見直し等行っていきたい。

1-1. 実施状況（延べ回数）

町名	実施回数
園部	14
八木	19
日吉	4
美山	8
合計	45

1-2. 実施状況（ケース数）

町名	人数
園部	14
八木	14
日吉	4
美山	3
合計	35

2. 職種別参加状況

参加者	参加者数（人）
包括職員	66
高齢福祉課	47
保健医療課	5
社会福祉課	13
福祉相談課	5
その他行政の課	9
介護支援専門員	38
介護サービス提供事業所	41
障がい者サービス提供事業所	17
社協職員	24
認知症推進員	5
その他事業者	4
本人	0
家族・親族	9
医療系従事者等	16
民生委員	13
区長	0
近隣等	0
警察関係	2
消防署	2
金融機関	0
その他	2
合計	318
1回あたりの参加者数	7.9

3. 開催の経緯※重複あり

情報共有	33
近所との関係	4
障がいの課題	6
制度はさま	2
経済的な課題	8
認知症の課題	6
虐待	13
独居	10
高齢者世帯	2
居場所	3
見守り	7
医療の課題	7
施設入所	9
家族関係	9
就労	0
住環境	9
運転	0

会議45回の内、虐待評価会議を兼ねたものは9回。

令和2年度 地域ケア個別会議からみえた課題

レベル別	類型	具体的内容
①行政 (公助)	キーパーソン	独居、子どもと疎遠による保証人問題。
		住まいの老朽化、不衛生があるが、判断力や経済力、身寄りの問題等から次の住まいへの移行が難しい。
		キーパーソンが曖昧な人の緊急時対応、連絡、身元引受人をどうしたらよいかわからない世帯の増加。
	高齢者以外の要援護者の支援体制	障がいのある子をもつ親が認知症になると、世帯全体の支援の方向性を事業所だけで決められない。
	地域資源	金銭的に困難さを抱えた高齢者の行き先が限られる。
②専門職 (共助)	認知症支援	家族の、認知症を隠したい気持ちや認知症への理解が薄いことから、サービスに繋がらない。
		地域住民は、認知症の方を支えたい気持ちはあるが、具体的な対応や声掛けが分からない。
		GPSの登録先が就労している家族だけでは対応できない。
		認知症高齢者の支援では、金銭管理の仕方を関係機関で共有し統一した対応をしないと、本人の混乱を招く。
		家族の認知症に対する理解不足により、医療やサービスに繋がらない。
	介護	受援拒否や生活困窮など、様々な理由でサービス増回を望まないケースでは、介護者は介護負担を感じてはいるため、身体的・心理的負担が増大し、不適切な介護者の介護力や介護知識の不足。
		認知症介護により介護者が疲弊する。
	高齢者以外の要援護者の支援体制	障がい相談員と介護保険ケアマネが入っている世帯の、スムーズな情報共有方法。
		障がいの傾向が強い高齢者の支援体制。
	キーパーソン	家族が話し合いを拒否する世帯の増加。
レベル別	類型	具体的内容
③地域・社協（互助）	居場所	新しく転居してきた人は地域との接点も少なく、サロンに参加されることが少ない。
		障害があっても参加できる居場所。
	認知症支援	認知症高齢者で徘徊リスクのある方は、介護保険サービスやGPS活用だけでは支援の限界がある。
		物とられ妄想のある独居高齢者の地域の対応。
		認知症の方への接し方を知ってもらうことで、近隣の方も見守りが充実する
	家族の疾患	介護者に障がいがあり、介護者にも支援が必要な世帯の増加。
	独居者の支援	聴覚障害のある独居高齢者の災害時や緊急時の対応への不安。
	キーパーソン	身内と縁が薄く、いざという時に頼れる人がいない。
		介護者の支援が必要な世帯の増加。
	高齢者以外の要援護者の支援体制	一家の中に介護、障がいと多重ケアが必要な世帯の増加。
	地域の支援体制	独居認知症高齢者のゴミ捨てや安否確認支援は、サービスだけでは支えきれない。
		障がい特性に起因する独居高齢者の行動などについて、近隣住民からの苦情。
		近隣を見守るサービスや地域の関係者の見守り支援。
	精神疾患への対応	精神科的な問題を抱えているが、精神科受診へスムーズに繋がらない。
④住民 (自助)	動物	高齢化や認知症の進行に伴い、ペットの世話が十分にできない。また、飼えなくなった時のペットの保護先がない。
	認知症支援	家族が、本人の受診やサービス拒否の思いを尊重し、医療やサービスに繋がらない。
	家族の疾患	精神疾患の子供と同居しており、子供の理解が得にくい為、必要なサービスに繋がりが難しい。
	家族関係-依存	精神疾患や障害のある家族と同居する高齢者は、自身の健康（精神状態を含）を脅かされるリスクが高くなる。
		介護者の要介護者への思いや依存心が強く、サービスに繋がらない。

(4) 介護予防マネジメント

サービス利用件数は減っている月もあるが、1年を通して少しずつ増加してきている。件数の増加や南丹市内居宅介護支援事業所の介護支援専門員の減少（前年度3月時点では47人）も相まって、南丹市内のケアマネジャー1名あたり平均担当数が9.7人と、前年度3月の8.6人と比べ1人以上以上担当件数が増えた。

ケアマネジメントA・ケアマネジメントBは1年間概ね横ばいで推移し、介護予防支援の利用件数が増加してきている。

市内ケアマネジャーの委託率は73.5%となっており、今後もケアマネジャーと連携しながら対応していく必要がある。

①介護予防サービス・総合事業（介護予防・生活支援サービス（第1号事業）

ア. 令和2年度 月別サービス 利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業対象者	29	28	29	28	29	26	30	26	25	27	29	31
要支援1	105	99	101	102	102	111	114	117	120	120	117	124
要支援2	370	368	372	388	380	374	376	380	380	375	371	379
合 計	504	495	502	518	511	511	520	523	525	522	517	534

イ-1. 介護予防支援/介護予防ケアマネジメント委託状況（町別）

	全体	園部	八木	日吉	美山
ケアマネ	389	153	80	95	61
(委託率)	73.5%	75.7%	71.4%	78.5%	64.9%
包括	140	49	32	26	33
合 計	529	202	112	121	94

※R3.3月時点（市外在住5名除く）

イ-2. 介護予防支援/介護予防ケアマネジメント委託状況（全体）

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R元 年度	R2 年度
ケアマネ	236	268	298	323	338	384	383	389
(委託率)	69.4%	71.1%	71.1%	74.1%	68.7%	75.5%	76.8%	73.5%
包括	104	109	121	113	154	124	116	140
合 計	340	377	419	436	492	508	502	529
包括職員配置	8人	9人	9人	10人	10人	11人	11人	11人

- ・南丹市内委託居宅介護支援事業所…19箇所 介護支援専門員数…42人
南丹市外委託居宅介護支援事業所…4箇所 介護支援専門員数…4人
- ・R3年3月に他市・他県でサービスを利用している要支援者…5人
京都府内…4人 他県…1人

ウ. 介護予防サービス計画・介護予防ケアプラン作成状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護予防支援	341	341	344	359	357	362	362	371	377	378	372	380
ケアマネジメントA	158	149	153	154	149	144	151	145	142	138	141	147
ケアマネジメントB	5	5	5	5	5	5	7	7	6	6	4	7
合 計	504	495	502	518	511	511	520	523	525	522	517	534

- ・介護予防支援…介護予防サービス利用（総合事業サービス含む）
- ・ケアマネジメントA…総合事業サービス（現行相当）利用（くらし安心サポート含む）
- ・ケアマネジメントB…総合事業サービス（くらし安心サポート）のみの利用
- ・介護予防サービス…通所リハビリ・福祉用具貸与・訪問看護・短期入所など
- ・総合事業サービス…通所型サービス（デイサービス現行相当）
訪問型サービス（訪問介護現行相当）くらし安心サポート（旧 軽度生活支援事業が移行）

エ. 令和2年度 町別 サービス利用件数（認定別）

	園部	八木	日吉	美山	計
事業対象者	13	3	11	4	31
要支援1	52	27	15	30	124
要支援2	133	99	74	73	379
合 計					534

※R3.3月時点

オ. 令和2年度 町別 サービス利用件数（ケアプラン別）

	園部	八木	日吉	美山	計
予防支援	129	89	80	82	380
ケアマネジメントA	69	40	13	25	147
ケアマネジメントB	0	0	7	0	7
合 計					534

※R3.3月時点

(5) 地域包括支援ネットワークの構築

①介護者（家族）の会

（全体）新型コロナ感染拡大の影響により、4町合同交流会は中止となった。新たな交流の形として取り組んだ合同ニュースは好評で、続編を待つ声や記事へのリクエストが寄せられた。第3号は介護体験談や1年間の家族会活動をふり返った手記、第2号で反響のあったコーナーの続編を掲載し、3月末に発行した。4町合同交流会の再開はコロナの状況を見ながらの判断となる。

新型コロナ感染予防対策として、2月の会長会は初のオンライン開催を試みた。回線トラブルはあったものの、移動時間短縮や密を防げる点は評価され「初めてで不安だったが顔を見ながら意見交換できてよかった」「この状況下なら今後もオンライン会議でよいのでは」と意見があった。

（各町）現役介護者がリフレッシュできる時間を提供したいと交流会を企画し、感染予防対策を講じ開催した。次年度以降の交流会の在り方を検討する必要があるが、「顔を見て話ができることが何より嬉しい」という声が挙がっている。

南丹市介護者家族の会（全体）

	開催日	内容など	参加
会長会	6/8（月）	情報交換、協議（合同交流会・合同ニュースについて）	9名
		7月 合同ニュース第1号発行	
会長会	9/2（水）	情報交換、合同交流会開催について（今年度中止で確認する）	8名
会長会	11/9（月）	情報交換、合同ニュース発行について	9名
		12月 合同ニュース第2号発行	
会長会	2/12（金）	オンライン会議 情報共有、合同ニュース第3号発行について	8名
		3月 合同ニュース第3号発行	

園部町介護者の会 なごみの輪（会員数：25人〔うちOB会員7人〕）

	開催日	内容など	参加
第1回	8/25（水）	おしゃべり交流会	8名
	9/10（木）	なごみの輪ニュース発行	
第2回	10/29（木）	おしゃべり交流会	10名
	11/13（金）	なごみの輪ニュース発行	
第3回	12/23（水）	おしゃべり交流会	10名
	1/8（金）	なごみの輪ニュース発行	
第4回	3/24（水）	おしゃべり交流会	12名

八木町介護者の会 たんぽぽ（会員数：35人〔うちOB会員28人〕）

	開催日	内容など	参加
第1回	7/10（土）	役員会（今年度の活動について）	11名
第2回	9/11（金）	役員会（今後の活動について）	11名
	10/6（水）	たんぽぽニュース発行	
第3回	11/20（金）	役員会、クリスマスツリー飾りつけ	11名
	1/26（火）	たんぽぽニュース発行	
第4回	2/19（金）	おしゃべり会	15名
第5回	3/12（金）	役員会（来年度活動について）	10名

日吉町介護者の会 絆の会（会員数：19人〔うちOB会員8人〕）

	開催日	内容など	参加
第1回	8/4（火）	役員会（今年度の活動について）	4名
	9/25（金）	絆ニュース発行	名
第2回	1/14（木）	役員会（今年度の活動について）	4名
第3回	3/17（水）	在宅介護者のつどい	7名
第4回	3/17（水）	役員会（来年度について）	4名
	3/19（金）	パンフレット等送付	名

美山町介護者の会 あいの会（会員数：15人〔うちOB会員8人〕）

	開催日	内容など	参加
	4/20（月）	あいの会ニュース発行	
第1回	6/17（水）	意見交換・近況報告	9名
	6/24（水）	あいの会ニュース発行	
第2回	7/8（水）	喫茶交流会	8名
	7/22（水）	あいの会ニュース発行	
第3回	9/8（火）	グラウンドゴルフ&おしゃべり交流会	14名
	9/16（水）	あいの会ニュース発行	
第4回	10/14（水）	川柳教室	9名
	11/5（木）	あいの会ニュース発行	
第5回	11/20（金）	紅葉狩り	8名
第6回	12/8（火）	クリスマス会	9名
	12/22（火）	あいの会ニュース発行	
第7回	2/24（水）	エコバッグ作成	7名
第8回	3/26（金）	今年度のふりかえり 次年度に向けて	6名

②さまざまな社会資源との連携

コロナ禍で、イベントやサロン等の居場所の開催が減少している中、出前講座による活動も例年と比較すると少なくなったが、生きがい活動支援事業へは各町すべてに出向くことができた生きがい活動支援事業は今年度終了となった事業でもあり、参加者の様子も聞き取り、相談が入りやすい関係を作ることになった。地域による差はあるものの、居場所の活動が再開となっている中、包括の啓発もかねて話をする機会は少しずつ持ってきている。

ア. 出前講座

	実施日	地域	団体・対象	内 容		実施日	地域	団体・対象	内 容
1	6/2 (水)	園部	ふれあい教室 (船岡)	コロナで休止後の再開。健康チェック	21	9/11 (土)	日吉	五ヶ荘ミニデイ	物忘れ対処法
2	6/2 (水)	園部	ふれあい教室 (越方)	コロナで休止後の再開。健康チェック	22	10/1 (木)	日吉	胡麻②ミニデイ	物忘れ対処法
3	6/9 (水)	園部	ふれあい教室 (黒田)	コロナで休止後の再開。健康チェック	23	10/6 (火)	園部	ふれあい教室 (曾我谷)	「転ばぬ先の杖」～起こりうるリスクに備えて～
4	6/11 (金)	八木	生きがい通所 (西)	コロナで休止後の再開。健康チェック	24	11/5 (木)	日吉	わっかつか	介護保険勉強会
5	6/12 (土)	八木	生きがい通所 (南)	コロナで休止後の再開。健康チェック	25	11/6 (金)	日吉	胡麻①ミニデイ	物忘れ対処法
6	6/17 (木)	美山	宮島ミニデイ	コロナで休止後の再開。健康チェック、フレイル予防の話、体操など	26	11/7 (火)	園部	ふれあい教室 (新町)	「転ばぬ先の杖」～起こりうるリスクに備えて～
7	6/18 (金)	日吉	胡麻 2 ミニデイ	コロナで休止後の再開。健康チェック	27	11/12 (木)	日吉	世木ミニデイ	物忘れ対処法
8	6/19 (土)	日吉	胡麻 1 ミニデイ	コロナで休止後の再開。健康チェック	28	11/24 (火)	日吉	殿田ミニデイ	手芸
9	6/22 (火)	美山	鶴ヶ岡ミニデイ	コロナで休止後の再開。健康チェック、フレイル予防の話、体操など	29	11/24 (火)	八木	生きがい通所 (北・東・神吉)	「転ばぬ先の杖」～起こりうるリスクに備えて～
10	6/23 (水)	八木	生きがい通所 (北・東・神吉)	コロナで休止後の再開。健康チェック	30	11/26 (木)	八木	生きがい通所 (西)	「転ばぬ先の杖」～起こりうるリスクに備えて～
11	6/23 (水)	日吉	殿田ミニデイ	コロナで休止後の再開。健康チェック	31	11/28 (土)	園部	出張相談 るり色マルシェ	血管年齢測定、ロコモチェック、包括啓発：42人
12	6/25 (金)	美山	知井ミニデイ	コロナで休止後の再開。フレイル予防の話、体操など	32	12/4 (金)	八木	生きがい通所 (南)	「転ばぬ先の杖」～起こりうるリスクに備えて～
13	6/26 (土)	日吉	五ヶ荘ミニデイ	コロナで休止後の再開。健康チェック	33	12/8 (火)	園部	ふれあい教室 (埴生)	「転ばぬ先の杖」～起こりうるリスクに備えて～
14	7/3 (土)	日吉	殿田小	車いす体験	34	12/21 (月)	八木	ほほえみ八木ヘルパー ミーティング	褥瘡と認知症について
15	7/7 (水)	園部	ふれあい教室 (美園)	コロナで休止後の再開。健康チェック	35	12/23 (水)	八木	ほほえみ八木ヘルパー ミーティング	褥瘡と認知症について
16	7/14 (水)	園部	ふれあい教室 (竹井①)	コロナで休止後の再開。健康チェック	36	1/26 (火)	八木	八木東小 (4年生)	車椅子体験
17	7/28 (水)	園部	ふれあい教室 (竹井②)	コロナで休止後の再開。健康チェック	37	3/9 (火)	園部	ふれあい教室 (大西)	「転ばぬ先の杖」～起こりうるリスクに備えて～
18	8/4 (水)	園部	ふれあい教室 (高屋)	「転ばぬ先の杖」～起こりうるリスクに備えて～					
19	8/4 (水)	園部	ふれあい教室 (小山西)	コロナで休止後の再開。健康チェック					
20	8/25 (水)	日吉	殿田ミニデイ	物忘れ対処法					

イ. 会議等への出席

【全体】

会議名	出席	月日	主な内容
南丹市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会 (地域包括支援センター運営協議)	4	7/15 (水) 10/14 (水) 12/10 (木) 2/3 (水)	地域包括支援センター令和元年度事業報告、令和2年度事業計画について 第8期介護保険事業計画策定
南丹市老人ホーム入所判定委員会	1	6/1 (月) 書面審査、2/24 (水)	養護老人ホーム入所継続審査 退所およびその他の案件報告
南丹市医療対策審議会			
南丹市生活困窮自立支援事業支援調整会議	4	4/21(火) 欠席、5/21 (木) 欠席、6/23 (火)、7/21 (火)、8/25 (火) 欠席、9/28 (月)、10/27 (火) 欠席、11/26 (木) 欠席、12/22 (火)	生活困窮者の相談実績報告、支援計画の確認
南丹市健康まちづくり推進協議会	1	9/30(水) 欠席、2/15 (月)	活動報告 (タバコ対策、インターバルウオーキング、弁当の日)
京都中部総合医療センター地域医療支援病院運営委員会	1	6/3(水)、8月中止、12/28(月) 報告資料配布、3/1 (月)	2019年度地域医療連携実績報告 新型コロナウイルス感染症対応について
京都中部総合医療センター認知症疾患医療連携協議会			
京都府認知症施策連絡会	1	3/2(火)	情報共有、チームオレンジについて、その他
南丹市認知症初期集中支援サポーター会議	1	8/7(金)、12/4 (金)	情報交換、チーム活動の報告、令和2年度事業計画、その他
南丹市認知症初期集中支援検討会議	1	2/19(金)	情報交換、チーム活動の報告、令和2年度活動報告 その他
京都府地域包括・在宅介護支援センター協議会	3	6/1 総会(文書決議) 2/1 研修 (オンライン) 3/17南丹ブロック研修(オンライン) 3/23総会、研修 (オンライン)	
オレンジロードつなげ隊			
在宅医療・介護連携推進事業検討会	1	9/4(金)	医療介護連携推進事業の取り組みについて、今年度の計画について
地域リハビリテーションにかかる連携会議 (南丹市)			
南丹市障がい者支援ネットワーク会議 全体会	1	12/1 (火)	意思決定支援について基礎講座、グループワーク
南丹地域医療構想調整会議・地域保健医療協議会			
南丹市成年後見制度利用促進に向けた連携会議			
南丹市事例検討会 (地域リハビリテーション支援センター)	1	1/27 (水) Web会議	介護サービスの適正化について、住民通いの場の関わりについて
南丹地域くらしの安心・安全ネットワーク情報交換	1	2/24 (水) 書面報告	消費生活に関する取り組み状況、課題、関係機関との連携について
京都府地域リハビリテーション南丹圏域連絡会	1	3/16 (火) 書面報告	令和2年度事業報告
南丹保健所難病対策地域協議会	1	3/29 (月) 書面報告	災害に関する難病患者への支援について

【園部】

会議名	出席	月日	主な内容
障がい者支援ネットワーク会議	2	9/11 (金) 11/20 (月) 12/1 (火) 全体会、1/22 (金) 意見提出、3/12 (金)	情報交換、地域課題、意見交換、研修、次年度の取り組み検討
民生児童委員協議会総会、定例会	1	1/13(火) 定例会	講座：地域の「つなぎ役」 ～具体的な相談事例を通して～
ふれあい委員研修会			
地域別懇談会			
園部たすけあい会議	6	5月なし、7/28 (火)、9/29 (火)、11/25 (水)、2/10 (水)	住民主体の助け合いについて
園部エリア会議	10	4/3 (金)、5月なし、6/1 (月)、7月なし、8/5 (水)、9/2 (水)、10/5 (月)、11/6 (金)、12/2 (水)、1/6 (水)、2/1 (月)、3/2 (火)	各部署情報交換、園部地域について
幸せの里運営推進会議	1	4月、6月、8月、10月すべて書面にて。12/23 (水)、2月書面	施設運営報告、意見提出
はぎの里オアシス運営推進会議		5/12 (火) 会議なし、7/14 (火) 会議なし、9/9 (火) 会議なし、11/10 (火) 会議なし、1/12 (火) 会議なし、3/9 (火) 会議なし	文書報告、意見提出
だんない運営推進会議	4	5月 会議なし 9/17(木) 11/19 (木) 1/14(木) 文書報告 3/11 (木)	5月文書報告、意見提出 9/17 (木) 利用状況 コロナ対策等について 11/19 (木) サービス評価について
ふれあいハート運営推進会議			
ふれあい本町運営推進会議			

【八木】

会議名	出席	月日	主な内容
障がい者支援ネットワーク会議	2	4/21(火)中止 6/16(火)文書報告 8/18(火)文書報告 10/27(火) 12/15(火)文書報告 2/16(火)	新型コロナウイルス感染症対策について、情報交換、意見交換
民生児童委員協議会総会、定例会			
ふれあい委員研修会			
ふれあいネットワーク会議	9	11/2(月)、11/4(水)、11/5(木)、11/6(金)、11/9(月)、11/10(火)、11/12(木)、11/13(金)、11/17(火)	チェックリストについて、地域の情報共有
地域別懇談会			
八木たすけあい会議	1	9/30(水)、3/19(金)	八木地域の課題共有(ゴミ出し、集い場)、訪問D、おたすけ隊「たすかる」について
八木エリア会議	4	7/21(火)、8/18(火)、11/6(金)、12/11(金)、3/9(火)	情報共有、個別事例 八木「ケアメン倶楽部」、来年度認知症啓発活動について
かたらいの家運営推進会議		5/20(水)中止 7/15(水)中止 9/16(水)中止 11/18(水)中止 1/20(水)中止 3/17(水)中止	運営について、文書報告(意見提出) 文書での意見提出
ちくりんえん運営推進会議		会議なし	運営について、文書報告 文書での意見提出
ラポールデイサービスセンター運営推進会議		会議なし	3月分文書報告 文書で意見提出
N I S リハトレセンター運営推進会議		6月会議なし 12月会議なし	12月分文書報告

【日吉】

会議名	出席	月日	主な内容
障がい者支援ネットワーク会議	1	5/26(火)会議なし 7/27(月)人数制限のため文書報告、9/29(火)	情報交換、意見交換、文書報告、防災、新型コロナウイルス感染症対策について
民生児童委員協議会総会、定例会			
ふれあい委員研修会	1	8/6(木)日吉	
地区別懇談会			
日吉たすけあい会議	1	11/16(月)	情報共有、移動・外出支援について
日吉エリア会議	3	4/14(火)5/22(金)書面 7/20(月)9/15(火)11/16(月)1/18(月)3/15(月)	情報共有、協議事項
ひよしのまちカフェ ⇒おれんじスポットひよし	2	7/14(火)中止、8/18(火)、9/14(月)、3/11(木)中止	認知症の当事者と家族の方などが交流・情報提供
おれんじスポットひよし実行委員会	5	6/18(木)オンライン会議、7/13(月)開催検討、8/13(木)開催検討、8/20(木)、9/25(金)振り返り・次回検討、12/21(月)開催検討 2/3(水)開催検討、3/11(木)研修・今年度の振り返り	7月再開に向けて 開催中止、対象者・名称変更 開催検討、打ち合わせ 振り返り・次回検討
はぎの里ふれあいホーム運営推進会議		5/14(木)7/9(木)9/10(木)11/12(木)1/14(木)3/11(木)会議なし	5月・7月・9月・11月・1月・3月分文書報告、12月外部評価
はぎの里デイ運営推進会議		上半期開催なし(10月書面にて) 下半期の報告(R3.4月書面にて)	
はぎの里評議員会		6/22(月)書面決議、12/21(月)書面、3/24(水)書面決議	令和元年度事業報告、決算報告 令和2年度上半期事業報告、令和3年度事業計画、資金収支予算

【美山】

会議名	出席	月日	主な内容
障がい者支援ネットワーク会議	3	6/10(水)8/12(水)10/14(水)	コロナ対策意見交換
民生児童委員協議会定例会	2	9/15(火)、12/15(火)	民生委員との情報交換会の依頼 地域包括ケアシステムについて
民生児童委員との地域別情報交換会	5	10/9(金)[宮島]、10/12(金)[大野] 10/22(木)[鶴ヶ岡]、10/26(月)[平屋]、11/2(月)[知井]	民生委員、行政との情報交換
美山福祉ネットワーク会議			
ふれあい委員研修会			
地域別懇談会			
美山たすけあい会議			
美山エリア会議	10	6/25(月)7/28(火)8/27(木)9/29(火) 10/29(木) 11/27(金)12/24(木) 1/28(木)2/25(木)3/29(月)	情報共有、協議事項
グループホーム美山やすらぎ運営推進会議	5	7/21(火)9/24(木)11/26(木) 1/28(木)3/18(木)	事業所報告、意見交換
美山デイサービスセンター認知症対応型通所介護運営推進会議	2	9/24(木)3/18(木)	事業所報告、意見交換
知井ふれあいホー運営推進会議	1	3/12(金)	事業所報告、意見交換
グループホームみやま運営推進会議	5	6/24(水)8/26(水)10/28(水) 2/24(水)3/24(水)	事業所より報告、コロナ対策等意見交換

(6) 認知症を知り地域で支える活動の推進

① 認知症サポーター養成講座の開催

コロナの関係で、皆が集まっただけの開催が難しく、例年に比べると開催数が少なかった。見守りが必要な対象者がおられる地域では、民生委員・ふれあい委員から開催の要望をいただいた。多くの地区住民の方が参加され、認知症の方に対する声掛けの仕方や、実際に地域でどんな関わりができるかを住民同士で考え、学ぶ機会となった。

	月日	地域	対象者	サポーター数	キャラバンメイト	使用教材・内容
1	6/24 (木)		南丹市民	15 人	平井い・河村	標準テキスト
2	7/8 (木)	美山	京都府立北桑田高等学校美山分校	6 人	山田・平井恭	標準テキスト
3	8/26 (木)	園部	府営住宅サロン参加者、住民	17 人	西野・上井	標準テキスト
4	10/14 (水)		八木町内企業、行政	6 人	芦田・中斎	標準テキスト

②南丹市徘徊SOSネットワーク「つながろう南丹ネット」事業

今年度は、南丹市内の方では行方不明のFAX送信の依頼はなかった。他市町村からの依頼でFAXを2回送信した。FAXを送っても届かない事業所等があり、登録内容を確認する作業をしていた。今年度は、新しい取り組みとして、登録していただいている協力機関へ「つながろう南丹ネット通信」をFAXで送信した。これは、協力機関に普段から意識していただいたり、また、FAXが確実に送れるかどうかのテストも目的として実施した。来年度も継続していきたいと考えている。今年度新たに認知症で行方不明の心配があり事前登録した方は11名だった。行方不明の心配が少しでも助けられる事業として、来年度も広く啓発していきたい。

■事前登録、協力機関、FAX送信

事前登録（行方不明の心配のある方）	52 人	新規登録：4人(4～6月) 3人(7～9月) 2人(10月～12月) 2人(1月～3月)
協力機関登録(4～12月新規) (行方不明発生時に見守り・情報提供を行う)	164 箇所	新規登録：2ヶ所(4～6月) 20ヶ所(7～9月) 6ヶ所(10月～12月) 2ヶ所(1月～3月)
FAX送信	0 件	事前登録 有： 件 無： 件 発見 1件 ※市外 2件(亀岡市 京丹波町) (市外)

2. 認知症初期集中支援推進事業および認知症地域支援・ケア向上事業（南丹市委託事業）

認知症初期集中支援チームの支援件数は今年度は少なかった。認知症の相談としては、包括に入ってくる件数は前年度と大差なかったが、初期集中で対応するまでには至らなかったり、コロナ禍で動きが取りにくかったのが原因と考えられる。対象となったケースについては、担当ケアマネも交えて、支援について検討を行うことができた。またチーム員会議の持ち方として、オンラインを活用するなど工夫して行ってきた。チーム活動としては、対象事例があった際に適切に対応することが重要で、対応件数を増やしていくことが目的ではないものの、一方で事例を多く経験することで、チーム員の資質向上にもつながるため、今後、チーム支援につながるように、地域や関係機関への広報等について工夫が必要である。

(1) 認知症初期集中支援チーム活動

性別	男性：2人 女性：1人
年齢	70歳～74歳：0人 75～79歳：2人 80歳～84歳：1人 85歳以上：0人
把握ルート	家族から：2人 民生委員から：0人 介護支援専門員から：1人 行政から：0人
終了ケース	認知症：2人 軽度認知障害：0人 要介護：2人 要支援：0人 事業対象者：0人 未認定：0人

■チーム員会議（チーム員・チーム員医師）

内容…訪問・アセスメント結果の共有、支援目標・支援計画の検討

	月日	検討ケース	新規	継続	支援終了	モニタリング
第1回	7/17 (金)	2	1	2	0	0
第2回	12/4 (土)	2	0	2	1	0
第3回	1/22 (金)	2	1	1	1	0
第4回	2/19 (金)	1	0	1	0	0

■サポート会議・その他会議など

	会議名	月日	主な内容
1	サポート会議	5/2(金)	延期
2	サポート会議	8/7(金)	情報交換、活動報告、令和2年度事業計画、その他
3	サポート会議	12/4 (金)	情報交換、活動報告、多職種での事例検討、その他
4	検討会議	2/19 (金)	情報交換、令和2年度活動報告、その他

(2) 認知症地域支援推進員

一年を通して、行事など認知症啓発の機会は減少したものの、9月の世界アルツハイマー月間では南丹市国際交流会館のオレンジ色のライトアップや図書館と連携して認知症に関連した本のコーナー設置など、コロナ禍でもできることを行った。また、ネットワークづくりとして、認知症カフェアンケートを実施し、各カフェへ訪問することで、カフェの現状把握や市内カフェの連携のきっかけをつくることができた。他にも、事例や関わりを通して、ニーズを拾い上げ、地域との関係機関とも連携し、男性介護者に焦点をあてた「ケアメン倶楽部」の企画、実施など行うことができた。

また、地域づくりとして、認知症の方の見守り声かけ訓練を予定していたが、地域の事情で中止となった。話し合いを重ね計画をしてきたことなので、来年度に実施できるように再度計画をし直す予定である。

来年度も市と連携をとりながら、また関係機関や地域を巻き込みながら、今年度の課題や新たな視点などを生かして、継続性のある活動を行っていきたい。

①各種会議、研修等への出席

(京都府) (南丹圏域)

(南丹市)

内容		内容	
認知症施策連絡会	3/2[火]	認知症事業計画等会議	6/24[水]

②各取り組み、活動

	内容	
広報・啓発	認知症ケアパス広報、配布、配架依頼	・医療機関、開業医、保健所、市役所、介護保険事業所、図書館、民生委員などへ配布、配架依頼 ・京都新聞より取材を受ける[4/8(水)]→4/30の朝刊に掲載。数件問い合わせあり。 ・民生委員との情報交換にてAtoZを配布 ・つながろう南丹ネット協力機関へ配架依頼 ・京都府立京都学・歴史館よりAtoZの寄贈依頼あり配布
	認知症初期集中支援チーム	・民生委員へパンフレットを活用し紹介
認知症の理解	認知症サポーター養成講座	・北桑田高校美山分校 サポーター養成講座に向けた打合せ[6/18(木)] ・北桑田高校美山分校 サポーター養成講座[7/8(水)]生徒5名先生1名
	徘徊SOS関連	つながろう南丹チーム会議に出席。協力機関のマップづくりや有事の際のFAXにかかわる手段等ともに検討。
	ライトアップ	世界アルツハイマー月間にあわせ、南丹市国際交流会館をライトアップ[9/17(木)～20(日)]→京都新聞19日の朝刊にて掲載
	認知症にやさしい図書館	世界アルツハイマー月間、およびライトアップに合わせ、市中央図書館で認知症特設コーナーを設置[9/15(火)～30(水)]
	認知症に関する研修	社協法人内職員対象にて、広島県の認知症当事者(竹内氏)を招いての研修を実施[11/19(木)] 8名参加
	介護者支援	八木「ケアメン倶楽部」にて、認知症の妻を介護する夫5人での交流会を実施。認知症の簡単な勉強会を開催。悩み困りごとを共有する。
	生畑区声掛け見守り訓練	地域ケア個別会議にて、認知症の方が住み慣れた地域で住み続けられる方法を検討したことから、サロンで見守り声掛け訓練を行うことになる。 ・地域の方、駐在等交え、実施に向けて打合せ：[2/10(水)、3/1(月)、3/4(木)、3/23(火)] →R3年秋ごろに実施を目指す。
相談支援	認知症相談	・服薬管理 ・金銭管理(権利擁護事業) ・介護保険サービス利用について
	当事者支援活動	当事者N氏、妻氏と地域の卓球クラブに参加[8/21(金)] 当事者N氏、妻氏へ認知症公開Webセミナーについて案内
地域の把握	民生児童委員との情報交換会	地域で気になる方、心配な方の有無を確認(6～9月) 美山地域は10～11月にかけて実施
	地域ケア個別会議(ケース会議)	・園部2ケース[7/14(火)、9/18(金)]の地域ケア個別会議に出席 ・日吉1ケース[12/16(水)]の地域ケア個別会議に出席
	認知症カフェ(おれんじスポットひよし)	・第1回まちカフェ実行委員会参加 [7/13(月)] ・第2回おれんじスポットひよし実行委員会[8/13(木)] ・おれんじスポットひよし 参加[8/18(火)] ・おれんじスポットひよし 参加[9/14(月)] ・第3回おれんじスポットひよし実行委員会[9/25(金)] ・第4回おれんじスポットひよし実行委員会[12/21(月)] ・第5回おれんじスポットひよし実行委員会[3/11(木)]
	本人ミーティング検討会議	3/18(木)本人ミーティング開催に向けて、京都中部総合医療センター佐藤Dr. 交えて検討していたが、対象者がなくて中止。 保健所、京都中部総合医療センター交えて、今後の開催に向けて検討会議実施
連携・ネットワーク	2020 RUN伴京都	今年度のRUN伴は全国で中止。南丹市実行委員会事務局として、京都府実行委員会との情報交換ツールとしてFBアカウント作成。
	全国認知症地域支援推進員連絡会～すいしんいんネット～	・国の認知症地域支援推進員でつくる連絡会へ入会 [7/31(金)] ・すいしんいんオンラインセッション 参加 [12/22(火)]
	認知症初期集中支援チーム	チーム員会議に参加[7/17(金)、12/4(金)] サポート会議に参加[8/7(金)、12/4(金)]
	認知症カフェ	南丹市内5カ所の認知症カフェにアンケート実施[10～11月]、結果返信
	ケアメン倶楽部	認知症の妻を介護する夫への支援について、ケアマネジャーと相談。サービスでできる以外の支援があるとの課題共有。介護者同士で集える場を、ケアマネジャーと一緒に作る。[12/23(水)] 参加者：5人
	京都私立病院協会 病院認知症対応力向上研修 講師	・南丹市認知症初期集中支援チーム活動について ・ケアメン倶楽部の取り組みについて

居宅介護の部

各事業の経営改善を部門の最重要課題と位置づけ、職員一丸となり様々な視点から課題整理と改善の取り組みを進めてきた1年であった。新型コロナウイルス感染症による事業低迷への影響もあるが、各事業所では感染予防対策を徹底し、国や南丹市からのコロナ助成金を様々な感染予防機材の購入に充て大きな支出を抑えることが出来た。年度当初は法人内他部門の応援協力を得たことで体制不備を補う対応とすることができた。毎月の経営改善会議を継続し係長・課長が中心となり業務の見直しや体制の見直しを進めてきた。社協が運営するサービス事業所として地域住民の様々な課題把握を行う中で、相談しやすい関係づくりや職員のサービスの質の向上をしっかりと行っていくことが私たちの使命であり大きな目標と確信した。

コロナ感染症予防の影響により地域へ出向く機会や、住民との協働を模索する取り組みは減少したが、可能な範囲で他部門と協力し様々な相談に対応することができた。

次年度に向けては、更なる予防対策を検討し予防を徹底するとともに、社協が運営するサービス事業所として質の高いサービスを提供し、各事業の経営改善をさらに進めていきたい。特に、八木デイサービスの入浴環境整備として、ボイラーの取り換えと詩の郷の浴室改修の大きな改修事業が重なる。環境を整え、在宅生活を支えるサービス事業所としての役割をしっかりと担っていきたい。だんないでは開設10年を迎える節目の年になる。施設整備の改修について将来を見据えて計画を立てるとともに、利用者やご家族はもちろん、(将来ご利用いただける)地域住民の皆様に社協の事業所が身近な存在となるよう広報活動にも力をいれていく。

人材確保については今後さらに厳しい状況が続いていく中であるが、様々な条件のある方々を柔軟に採用し少子高齢化が進む中、限られた貴重な人材を確保できる体制づくりを法人全体で取り組んでいきたい。各事業所で介護報酬改定事項を熟知し法令遵守の上、地域に愛され選ばれる事業所となるよう職員一同一丸となって取り組んでいきたい。

居宅介護支援事業 ※月別利用者数 要支援認定者2人は1人として換算

単位:千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	4,947	4,739	4,887	4,803	4,714	4,781	4,907	4,837	4,997	4,846	4,774	4,769
利用者数	386人	376人	381人	378人	376人	378人	385人	383人	392人	386人	379人	380人

訪問介護事業 介護保険・障害居宅合算額

単位:千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	9,454	9,154	9,399	9,082	8,799	8,799	9,060	8,380	8,893	8,054	7,673	8,694
利用者数	209人	206人	212人	211人	206人	214人	218人	207人	205人	199人	197人	206人

通所介護事業 介護保険・障害生活介護合算額 ()内は稼働率 利用定員30人

単位:千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	6,254	5,587	5,851	6,152	5,996	6,165	6,446	6,270	6,286	5,728	5,734	6,751
利用者数	615人(78%)	557人(72%)	571人(73%)	597人(74%)	570人(73%)	609人(78%)	628人(78%)	598人(80%)	607人(78%)	541人(75%)	544人(76%)	647人(80%)

認知症対応型通所介護事業

()内は稼働率 利用定員12人

単位:千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	2,486	2,596	3,265	3,691	3,075	3,054	3,219	3,030	3,040	2,569	2,649	2,933
利用者数	197人(63%)	206人(66%)	259人(83%)	293人(90%)	244人(78%)	248人(80%)	258人(80%)	242人(81%)	243人(78%)	203人(71%)	207人(72%)	231人(71%)

小規模多機能型居宅介護事業

登録定員25人

単位:千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	3,975	4,342	4,165	4,004	3,679	4,027	4,125	3,936	3,868	3,457	3,253	3,254
登録者数	19人	20人	19人	19人	18人	18人	18人	18人	18人	16人	15人	16人

1. 居宅介護支援事業（介護予防居宅介護支援事業）

ほほえみ園部居宅介護支援事業所

① 目標に対しての評価と課題

今年度の収入目標に対して、目標達成率 88.5%で未達成であった。長期入所による利用者減少及び新型コロナウイルスの影響の相談控えに加え、状態変化による入院が多かったことが原因と考えられる。

目標とした加算取得では初回加算（初回ケアプラン作成月、または入院等、2ヶ月間サービス中断のち作成したケアプランに対し取得できるもの）、年 15 件の目標に対して 66%の達成率となった（受託した予防給付利用者の加算を含めると 120%の達成率）。入退院時の加算については他機関との細やかな連携を進めてきたことで、加算目標年間 15 件に対して 29 件を達成した。

地域協働や広報活動においてはホームページの更新とほほえみ園部通信を発行することができた。新型コロナウイルスの影響により当初予定されていた地域別懇談会が中止となったが、感染症対策を講じながら地域のサロンへ出向けたことは大きな収穫となった。今後も、感染予防に努めながら可能な限り地域に出向いていく機会を作りたい。

② 重点目標に対しての評価と課題

コロナウイルスの影響で研修に参加する機会が少なかったが、介護支援専門員更新研修受講のほか、支援に行き詰まったケースについては個別会議において多方面からの意見を聞き支援を統一化するなど相談援助技術の向上に努めた。

医療連携においては、コロナウイルスの影響で入院中の面会やカンファレンスについては制限があったが、工夫しながら病院との連携に努めた。在宅復帰が困難と思われた利用者について、利用者の望む自宅生活の実現に向けてカンファレンスや面談を重ね、自宅退院へとつなげることができた。利用者の状態変化の際には、心身状態のみならず日常生活の様子を聞き取り、プランに落とし込んで自宅での生活の支援に努めた。

ほほえみ八木居宅介護支援事業所

① 目標に対しての評価と課題

今年度の収入目標に対して目標達成率は 95%で未達成であった。上半期は新規相談が少なく、また利用者の入院が相次ぎ、入院を機に長期入所や転院となることが多かった。一方、下半期は月平均 7、8 名の安定した新規相談（初回加算算定）があり、初回加算取得目標値 40 件に対し 54 件を達成した（達成率 135%）。入退院時の医療連携も丁寧な対応を心掛け、年間の加算取得の年間目標値 60 件に対して 83 件を達成した（達成率 138%）。しかし年間を通じ、入院後の在宅復帰ケースが少ないことが課題となっている。

今年度は、職員の経営に対しての意識改革にも取り組み、毎月の実績をグラフ化し事務所に掲示することで、各職員の数字に対しての意識付けやモチベーションアップが図れた。

広報活動については、通信の発行 2 回やホームページ・パンフレットの更新、更には事務所の掲示板に事業所便りやアンケート結果を提示するなど、多くの方にケアマネジャーの周知ができた。

地域とのつながりの強化については、9 月八木町ネットワーク会議に出席し、民生委員、ふれあい委員と意見・情報交換することができた。また 12 月には包括部、地域福祉部と連携し、認知症の妻を介護する男性介護者対象に『ケアメン倶楽部』を企画開催することができ、改めて、継続した「寄り添い」支援の重要性を感じることもできた。

② 重点目標に対しての評価と課題

スキルアップを目標に、今年度の事業所強化ポイントでもあるケアプラン点検（京都府介護支援専門員会ケアプラン点検表を活用）を 3 回実施することができた。ケアマネジャーが作成したケアプランが、ケアマネジメントのプロセスを踏まえた「自立支援」に資する適切なケアプランとなっているかを、皆で検証確認することで、ケアマネジャーの「気づき」を促すことができたのではと思っている。

事例検討会は、他法人との共同事例検討会を 1 回企画し開催できた。また zoom 研修などには可能な限り参加し、コロナ禍の中でも学びの機会を確保した。事業所内の内部研修（勉強会）にも力を入れ、各ケアマネジャーが業務の中で弱いと思うところに視点を当て、各々が講師となり、ミ-

ティング（週 1 回定期開催）や事業所会議（月 1 回定期開催）の中でテーマを決めて勉強会を実施した。

選ばれる事業所づくりを目指す為にも、引き続きケアマネジャーのスキルアップ、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。

ほほえみかぐら居宅介護支援事業所

① 年度目標に対しての評価と課題

上半期の収入目標に対して目標達成率 138%と大きく目標値を上回ることができた。入院時や退院時の加算取得も 173%の達成率であった。要介護度の高い重度者の利用者の入院が相次ぎ、入院から長期入所または転院となる方が多かったことが大きな原因と考えられる。

下半期の収入目標に対しての目標達成率は 102%と上半期に比べ、利用者減となった。加算取得については 115%の達成率であった。1 年を通しての実績は、下半期、特に冬季に実績が減。入院も多かったが、今年度、特養の入所者が多かった印象である。新規、相談もコンスタントにあったが、不安定なケースが多く数か月で終了となることもあり、利用者の入れ替わりがあった。

② 重点目標に対しての評価と課題

地域協働事業については、新型コロナウイルス感染予防の観点から、軒並み中止となり、計画していた老人会やサロンでの出前講座など実施できなかった。一方で、認知症カフェ「おれんじスポットひよし」実行委員会については感染予防に努めながら参加することができ、関係機関と意見・情報交換を行うことができた。

広報活動・通信・HM 更新目標数値は達成できたが、地域へ出向いての発信については、上半期とおなじく下半期も機会がなかった。この、コロナ禍を準備期間とし、令和 3 年度は、外部に向けた発信に力を入れていきたい。

令和 3 年度に向けての展望（居宅介護支援事業所全体）

感染症の終息が見えない非常に困難な社会情勢ではあるが居宅介護支援事業の周知を図るため地域（住民）とのつながりを意識した取り組みを進めていきたい。地域福祉部門との連携をさらに強化し、サロン等、地域に出向く機会を模索し工夫を凝らして、地域と連携した支援の構築を進めていきたい。本当に困った時に相談できる窓口を常に解りやすく周知できる方法がまだまだ見いだせていない状況であり、住民に身近な存在になるためにも地域（住民）とのつながりを深めていく必要がある。

ケアマネジャーの業務を丁寧に行えるよう、個々のスキルアップを目指し選ばれる事業所を目指していきたい。

2. 訪問介護事業（障がい居宅サービス事業）

ほほえみ八木訪問介護事業所

① 年度目標に対しての評価と課題

今年度の収入目標に対して介護保険事業 達成率 110.4%障害者居宅事業 達成率 100.7%、と目標を達成することができた。業務改善から 2 年が経ち、登録ヘルパーとの連絡・情報伝達のしくみや職場の環境の見直しも目標達成につながった大きな要因と言える。課題としては、登録ヘルパーの人数が年々減ってきていることである。魅力発信の継続が必要である。

② 重点目標に対しての評価と課題

1 年を通してコロナ感染予防対策を取りながらも、ヘルパーのモチベーションを維持し続けることができた。外部研修は基幹相談センター相談員、オンライン研修と受講できる体制を整え全職員に実施することができた。町内にある NPO 法人と連携して介護の魅力発信のために地域福祉職員と一緒に進め、ヘルパーの魅力発信することができ、それに伴い当法人の他事業所ではあるが就職してくれる人材も現れた。請求システムを利用した、緊急連絡先一覧の継続的更新や、全ての利用者の『わたしのデータ』を更新することができた。次年度『キャンセル料』が発生することに伴い、速やかに事業所へ連絡いただくため事業所の緊急連絡先の電話番号の周知を 1 年かけて行った。

③ 次年度に向けての展望

感染予防対策の継続しながら、継続的な訪問介護事業の継続を行う。非常時の対応の強化を図る。又、限られた人材を必要な利用者訪問に生かすための『キャンセル料』が発生したときに丁寧な対応するこ

とで、事前の訪問キャンセルの連絡を意識してもらえるようにする。業務改善3年目、ヘルパーの魅力をパワーアップ発信し、新たな人材確保をめざす。内部研修に関しては、今後得られる可能性のある加算取得に向けて、認知症研修に力を入れたい。最後にこれらを受けてさらなる働きやすい職場環境を作り上げたいと思う。

ほほえみかぐら訪問介護事業所

① 年度目標に対しての評価と課題

サービス利用提供人数は、昨年度とほぼ横ばいのため、目標達成には至らなかった。数値目標に対しての達成率は介護保険事業 102.7%、障がい福祉サービス 82.0%となった。訪問ニーズと活動できるヘルパーの数にミスマッチが生じているため、やむを得ず断らざるえないケースもあり人材の確保が大きな課題であると言える。

下半期はさらにサービス利用人数が減少し、目標達成には至らず収支差額もマイナスとなった。入院者が多かったことや、施設入所者がおられ実績に反映できず、また、新規の相談に対して、断る事のないように調整や交渉に努めたが、利用者増には至らなかった。登録ヘルパーの高齢化等により勤務時間の制限や腰痛等のための活動制限が訪問調整に影響しており、長年の課題である。

② 重点目標に対しての評価と課題

年間を通じて新型コロナウイルスの影響で集合研修の機会は少なかったが、資料を配布するなどして、個人での学習をサポートしてきた。今年度の目標であった障がいの理解を深める為外部からの講師を招くことが出来た。日頃の支援との結びつきを学ぶことができ、ヘルパーのスキルアップに繋がった。

地域貢献の取り組みでは小学校福祉体験学習への参加が今年度の大きな成果であった。新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた地域との連携事業やふれあい委員、民生委員との意見交換は実施できなかった。またヘルパーの移動時間調整など整理が必要な課題も多く、引き続き検討を進めていきたい。訪問時に不在である利用者に対してキャンセル料を徴収することを全ご利用者にご理解いただき周知が行えた。現在就労中のヘルパーの活動時間を最大限に活用できるようサービス提供責任者の調整力を高めていきたい。長年の課題であるヘルパー不足に対して資格が無くても担えるサービス（社協制度外サービス）に従事してもらうという柔軟な対応も視野に入れて取り組んでいきたい。

③次年度に向けての展望

令和3年度4月からの報酬改定や、特定事業所加算Ⅱの加算算定にあたり、ヘルパーとしての資質の向上に向けた取り組みを実施し、各関係機関と連携し選ばれる事業所を目指していきたい。新たな人材確保に向けて他部門との連携、協働に取り組んで人材確保の成果を上げていきたい。現在就労中の職員の心身の体調管理を行い長く働き続けられる労働条件を整えることも重要となる。

数年間の実績から冬季の利用者減を見越して、春～秋にかけてのサービスの受け入れ強化期間として、取り組んでいきたい。

3. 通所介護事業（生活介護事業）

ほほえみ八木通所介護事業所

① 年度目標に対しての評価と課題

目標値である稼働率 90%を達成する事は出来ず、年間稼働率は約 73%であった。コロナ禍で感染予防に努める事に重点を置き、事業所として受け入れを抑える対応（三密対策）や、利用者側からの“利用を控えたい”との声も影響している。また、入院や熱発等でデイサービスを休まれた利用者の利用再開についても、以前の様に退院後や解熱後すぐに利用に繋げるのではなく、利用者（家族）に当面の自宅療養を協力要請した事で利用回数減となった。年間通してコロナ関連による影響は見られた。世の中は“ウィズコロナの生活様式”へと変化してきており、今後は状況を見極めながら、受け入れを拡大していきたい。

中重度ケア加算を算定している事もあり、中重度者の受け入れも積極的に行ったが、入院や入所となる事も多く、安定かつ継続的なサービス提供には至らなかった。

② 重点目標に対しての評価と課題

今年度は、様々な利用者ニーズに対応できるよう関係機関との連携の強化や利用者の再アセスメントを行い、利用者が安心してサービスを受けられる体制の構築を進めてきた。定例会議では事故、ひやりハットの振り返りや対策について話し合い、リスクマネジメントに対する共有と意識付けを

図った。コロナウイルスをはじめとする感染症の勉強会を重ねることで、職員の感染症に対する知識や意識が高められた。また、家族の介護負担軽減や利用者のQOLの向上に繋がる為に必要な知識（介護保険制度等）、情報の習得にも努めた。

事業所のセールスポイントである機能訓練については、効果的な訓練と評価を行うことで、利用者の残存機能維持と意欲向上に影響を与えることができた。口腔ケアでは口腔内の状況に合わせた支援を継続し肺炎ゼロに努めた。またコロナウイルス感染症予防の対策として飛沫パネルの設置、ソーシャルディスタンスの確保、換気装置の設置、体調管理の徹底など様々な対策を講じてきた。

一方で、例年通りのイベントやレクリエーションの開催は行えなかったが、感染予防が行える範囲内で、新たな形を創造・工夫し利用者の満足度を追求した。地域との交流はほとんど行えなかったが、ボランティアのイベント受入れ時には、ボランティアの検温や利用者との間に透明のカーテンで仕切りを作るなどの対策・工夫を行った。

経営面ではケアマネジャーとの連携強化に努め、毎月デイサービスの空き情報の発信や情報交換も今まで以上に丁寧に行い、毎月の居宅介護事業所訪問を実施し、関係作りにも努めた。パンフレットの更新や、季節毎の事業所便り発行を通じて施設（中間浴槽の新設等）の広報ができた。

③ 令和3年度に向けての展望

令和3年度目標の達成に向け、新規の利用者の獲得が望まれる。ミニデイの終了に伴い、通所型サービス利用を希望される方の新規獲得に取り組んでいきたい。常に経営分析を行い、様々な課題に対して丁寧に取り組んでいくことが利用者獲得にも繋がっていく。また関係機関との信頼関係を構築し、選ばれる事業所づくりを進めていきたい。事業所のセールスポイントである機能訓練や新しくなった入浴設備も活用しながら質の高いサービスの提供を目指していきたい。

4. 地域密着型・認知症対応型通所介護事業

やぎ詩の郷

① 年度目標に対しての評価と課題

目標稼働率平均 80%には達することが出来なかったが、80%を上回る月は6月、7月、11月の3回、年間を通して目標に近い75%の高い稼働率を達成することができた。7月は開設以来、過去最高の稼働率、収入を記録した。この背景には積極的に新規利用者（年間14名）、利用増回、困難ケースの受け入れを行ってきたことがあると言える。しかし、利用者が増えたことにより職員の負担が増加して、環境面での課題も残った。こうした課題に対応していくため、職員体制の見直しや業務マニュアルの見直し、不定期ではあるが昼食の外注依頼を進めてきた。

② 重点目標に対しての評価と課題

年間を通して、新型コロナウイルスの影響で全体での研修の機会が確保出来なかったが、「介護記録の書き方」や「身体拘束・虐待について」の職員研修を実施した。また、自己研鑽として認知症専門誌の購入や関連する資料の配布など、個々での介護技術向上に取り組んできた。家族会を開催したかったが難しい社会情勢であるからこそ断念し、その分連絡ノートを活用して、今まで以上に家族とのやり取りを強化した。

2度目の緊急事態宣言で2回目の運営推進会議は書面上で開催したが、その中で貴重な意見を頂き、季刊誌を地域の回覧板で回覧してもらう事になった。地域との交流が難しい反面、「認知症対応型通所介護事業所」である事をより知ってもらう良い機会、周知に繋がった。

経営改善への取り組みでは、収支状況の可視化や、経費削減に取り組むことができた。また、事業所の魅力が伝わるよう、パンフレットの刷新や利用者アンケートの結果を受け、季刊誌を通じて施設内を知ってもらう工夫ができた。

③ 令和3年度に向けての展望

今年度の取り組みを継続し経営の安定化と働き方改革を進めていきたい。稼働率80%（9.6人）以上を維持するため、質の高いサービス事業所づくり、利用者支援、家族支援の強化（相談支援体制の確立）「認知症」に特化した専門的ケア、支援ができる職員の育成や、業務改善の取り組みも進めていきたい。

5. 地域密着型・小規模多機能型居宅介護事業

小規模多機能ホームだんない

① 年度目標に対しての評価と課題

今年度新たな利用者登録はなく、長期入所等による利用解除の影響で非常に厳しい状況であった。新型コロナウイルス感染症による影響も考えられるが、大きな原因としては情報発信不足や事業所の存在が未だに周知されていないことと考えられ、今後の課題となった。事業所スローガンに基づいて、日々の利用者へのケアに加え介護者にも寄り添いながらサービスを提供してきた。早い時期から入所を希望していた利用者や家族に対し真摯に関わってきたことにより、在宅生活継続の一助になったのではないかと考える。ただ、館内は重度の利用者が利用しづらい面もみられ、介護用品及び備品を整え環境整備を行い工夫した介助を通して、重度利用者でも長く在宅介護を支えていけるような改善が必要と考える。

② 重点目標に対しての評価と課題

上半期は新型コロナウイルス感染症の影響で、外部との連携が困難な状況であった。運営推進会議は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながらの開催となった。今後も工夫しながら開催方法を検討していきたい。また、民生委員、ふれあい委員との連携の中で支援が前進したケースもあり、改めて地域との連携の大切さを実感できた。就労されている運営推進委員の方が増える傾向にあり、会議への参加がしにくい状況がある。会議の目的に沿うと開催時間等、検討の必要があると考える。緊急災害時の対応として、柔軟な利用者の受け入れ体制や、緊急時対応マニュアルが作成できたことは大きな成果であった。

職員の資質向上では、それぞれが目標を定め、工夫を重ねながら自己研鑽に努めることができたが、部内研修が実施できなかったことは次年度への課題である。会議の持ち方等を工夫して研修実施に繋げたい。事業経営と広報活動では、収支状況の可視化や伝達に力を注ぎ職員の意識改革に取り組んだ。

③ 令和3年度に向けての展望

事業実績が低迷するなか、質の高いサービスを提供し選ばれる事業所になることが必要である。業務改善については様々な課題に対してできることから取り組み、安定した事業経営に繋げたい。

新規利用者確保に向けては回覧等の活用で広報活動の充実を図り、受け入れ態勢も強化し体制を整える。特に看護職員の配置を強化することで、利用者の急な体調の変化はもちろん医療的ケアが必要な利用者の対応が可能な体制となった。看護職員が持つ医療知識を介護職員にも伝達することで職員の資質向上を図っていきたい。職員育成・研修実施を行い、利用者及び家族に寄り添った支援を強化し、地域にも貢献していきたい。今できることを考え一つひとつ丁寧に取り組んでいく。

自立支援の部

新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中、各事業所では徹底した感染症対策を講じ、事業を進めることができた。こうした状況下においても、事業所として「できること」を考え工夫をしながら利用者支援にあたることができたことは大きな成果であったと言える。また、前年度の赤字決算から脱却するために、管理者を始め全職員が経営に対しての意識も高め、様々な改善を実行することができた。毎月の役職会議では、経営分析を行い現状の把握をするとともに、各事業所での取組等の情報交換を行うことができた。

つくし園では、緊急事態宣言に伴い4月後半から5月の休園となった。あじさい園では新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小する形となったが、開設20周年記念式典を実施できた。また、ひより舎では、新規事業である菓子製造販売業をスタートさせることができた。

つくし園（児童発達支援・保育所等訪問）

単位：千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	688	282	1,731	1,549	1,383	1,574	1,968	1,785	1,700	1,737	1,781	2,081
利用者数	66人	26人	169人	145人	130人	141人	190人	173人	165人	169人	173人	201人

つくし園（障害児相談支援）

単位：千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	82	82	86	82	113	174	91	71	86	71	60	93
利用者数	5人	5人	5人	5人	7人	11人	5人	4人	5人	7人	3人	7人

てのひら（特定相談支援）

単位：千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	130	242	396	139	180	312	92	248	352	150	172	344
利用者数	8人	16人	26人	9人	12人	20人	6人	16人	24人	10人	12人	22人

あじさい園（）内は稼働率 利用定員35人

単位：千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	3,660	3,122	4,171	3,886	3,393	3,716	4,079	3,380	3,580	3,443	3,346	3,956
利用者数	496人(71%)	425人(67%)	567人(74%)	527人(72%)	460人(73%)	505人(76%)	551人(75%)	458人(65%)	482人(69%)	465人(70%)	456人(72%)	544人(74%)

ひより舎（）内は稼働率 利用定員20人

単位：千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入実績	2,014	1,780	2,398	2,291	2,106	2,140	2,408	2,045	2,227	2,078	1,693	2,379
利用者数	291人(73%)	257人(71%)	343人(78%)	330人(79%)	302人(76%)	308人(81%)	348人(83%)	294人(74%)	322人(81%)	298人(78%)	240人(67%)	324人(74%)

児童発達支援事業

つくし園

① 児童発達支援事業

評価と課題

令和2年度は緊急事態宣言による休園があり、新規利用児の受け入れなど事業運営にも大きく影響した。療育では方針など保護者にわかりやすく説明をするように心がけた。療育の様子についても、保護者により伝わりやすくなるように、連絡ノートによる報告を活字から写真を中心に変えたことで、「活動内容や本人の表情がわかりやすい」「楽しみにしている」等、保護者からの反応があった。

関係機関との連携では新型コロナウイルス感染予防の観点から、集合形式による関係機関との意

見交換や交流、他機関職員によるつくし園での療育の参観、つくし園以外での訓練の参観等の実践場面や、利用児や保護者を交えての直接的な連携は難しい状況にあったが、個々に関係機関とは連携を行った。新規利用児における関係機関を交えた個別面談も行い、支援目標を共有した上で受け入れることができた。年長児を対象とした五者面談は、希望された保護者の利用児すべてに面談を行うことができた。面談を受けた保護者が今後を見据え、納得して学びの場を選択されている。また、就学後の放課後の過ごし方においての保護者向けの説明会を、家族会主催で行っている。今年度は、就学後も途切れることなく支援ができる体制を整えておくため、社会福祉課との連携を図ることができた。課題もあったが効果もあったため、次年度も継続したい。

例年にない対応としては、新型コロナウイルス感染予防の体制づくりが必要となった。緊急事態宣言発令の際は基本的に休園としたが、子どもの課題等に応じて保護者と相談しながら療育を継続したお子さんもいる（10名）。休園の利用児へは、保護者に電話で様子を確認する等の通園に代わる対応をした。休園したのはその時期だけであり、登園・降園時の検温やこまめな消毒を行い、密を避けながら療育を実施した。送迎バス利用の利用児に関しては、並行通園先の協力を得て園の送り出しの際に検温をして頂いた。教育機関は休園・休校となったが、保育所・放課後等デイサービス等福祉関係機関は内容を縮小しながらも受け入れていた。

職員育成に関しては、職場内での指導や講義の聴講だけでなく、療育現場における専門職の実演指導など、より身近な場での指導の必要性を感じている。関係機関との連携の中で、事業所として専門的見解を求められることも増えてきた。しかしながら毎年療育未経験の職員があり段階的に育成をしていかなければいけないことや、専門的視野を広げる研修においては講義研修より実演研修がより理解しやすいと感じられる。療育現場を未経験職員もあり、理論的な研修より実践的な研修が望ましいと考える。

次年度に向けての展望

- ・保護者が体験・利用を希望している場合は、積極的に受け入れていきたい。
- ・保護者の思いを汲み取ることや、関係機関との連携を積極的に行い、子どもに関わる大人が共通認識をした中で支援を行う。
- ・保護者や関係機関との連携の中で、日々の様子をより丁寧に伝えられるような職員を育成する。職員育成には他事業所との合同研修・事業所内事例検討・南丹市子育て発達支援センター作業療法士を講師とした実践的な研修等を考えている。
- ・公開日に『利用児さんと触れ合う機会があってもいい』という意見もあったので、療育内容に地域の方々とのふれあい活動も考えていきたい。

行事等の報告(特に地域福祉推進の関連する行事・イベント)

- ・8月8日(土)地域交流として、つくし園(発達支援センター)公開を開催した。

初めての取り組みであったが、市議員、民生委員の方々などを含め40名近くの住民の方が来場され、公開の意義を改めて感じた。発達支援センターになってから初めて見学したという方もおられ、中には「子どもの頃に経験すべき活動がたくさんできるいい環境だ」、「子供の成長にこのような経験は大切だ」と期待の声も多くいただけた。

保育所等訪問支援事業

評価と課題

新型コロナウイルスの影響により休校中の依頼は少なかったが、再開後は訪問依頼が増え、特に1学期終了時期に相談が続いた。相談件数自体が少なく、ケースによっては、相談対応したものの、給付費の算定条件を満たさないこともあり、収入になりにくいことが課題である。

次年度に向けての展望

本人の生きづらさ、学習の内容の習得のしづらさ等に関して、保護者や学校の先生と共にどのような対応をしていけばいいのか考えていく。

障害児相談支援事業・特定相談支援事業

つくし園・てのひら

評価と課題

相談支援では、主な給付費としてサービス利用計画作成と利用者ごとに期間が異なるモニタリングがあるが、以前は多くが6ヶ月毎だったモニタリングが3ヶ月毎となった利用者が増え、収入増につながった。

業務については、年度当初では、新型コロナの感染予防のため訪問を控え、電話やメールなど対面を避けて利用者支援や関係機関との連携をせざるを得ないことが多かった。音声のみのやり取りに弱い特性のある利用者については、訪問を必須として対応した。利用される障害福祉サービスについては、一部縮小や通所事業を休止する事業所もあったが、多くの事業所がサービスの継続・代替手法によって対応していたこともあり、大きく支援計画を変えることもなかった。冬季も、入所施設の面会中止対応以外では、特に異なる対応をすることはなかった。緊急事態宣言解除後は、徐々に通常の支援に戻っていった。テレワークが定着しなかった点については、体制が不十分なこと、担当する障害者の特性から今まで通り対面での関わりが適していることが多かったことが要因と考える。感染症対策に必要なマスクや消毒液については、直接処遇をする事業所のような優先調達が当初なく、市が手配して事業所に配布いただいたことが大変有用だった。制度改正によって回数増となっている特定相談支援のモニタリングの影響が今年度より表れて収入増になったが、南丹市内全域に担当を持つ故に、移動時間含めて利用者一人の支援に必要な時間数増となっている。

障害児相談支援においては、担当する障害児へ相談支援の役割について模索している。保護者とのやり取りはしているが、教育機関とは連絡を取らないこともあり、障害児支援の範囲とはと悩むことも多い。利用者への支援の状況としては、大半が安定した生活を送れているが、障害特性による暮らしにくさもあり、変化が起きると生活等にその影響を大きく受けるため、対応に時間を取られることが多かった。サービス導入や、金銭問題、こだわりが高じた結果の警察沙汰など、福祉サービスだけでは解決が困難なケースもあり、医療をはじめ関係機関との連携を必要とした。また、解決に年単位の時間を要するものもあった。

次年度に向けての展望

収益の上がりにくい事業であるが、少子高齢化やなどの社会情勢を背景にニーズは高くなっていくと思われる。南丹市内の相談支援専門員が多くない中で、持ち込まれた新規相談を受け入れるには負担が大きい。職員が兼務であったりや経験年数が少ないという状況の中、必要な支援スキルを育成しながら事業を継続していきたい。

地域活動支援センター事業

そよかぜ八木・そよかぜ日吉・そよかぜ美山

評価と課題

そよかぜ八木

※利用登録者数 …… 28 人(前年度：26 人)

※1日あたり平均通所者数 …… 4.7 人(前年度：4.0 人)

今年度は、新型コロナウイルス感染症による影響はあったが、フリーサロンの利用は昨年同様であった。緊急事態宣言期間中も含め、ご利用者が安心して過ごせる場所の提供として、きめ細かい配慮と個別性を重視して過ごしていただくように努力した。通所者の話す些細な日常の出来事に耳を傾け、小さな困りごとに早期に対応することで、生活がつつがなく継続できるように心がけた。

プログラムや活動については、利用者の希望を尊重し意欲的にできる内容を考え、地域の方やボランティアの方の協力のもとで参加しやすい行事や創作活動を実施した。訪問支援として本人だけではなく家族支援も行った。

そよかぜ日吉

※利用登録者数 …… 24 人(前年度：24 人)

※1日あたり平均通所者数 …… 3.4 人(前年度：5.5 人)

約9年間事業をしていた胡麻駅前から、10月に上胡麻広野に事業所を移転。新しい場所は広い庭があり、大きな窓のある部屋など開放的になったことなどにより、通所される方にとって以前同様の居心地の良さを感じていただいている。移転後に内覧会を開催し、また近隣住民の協力によって、写真展を開催することもできた。今後も、障がい者の地域の居場所として周知できるように、新しい事業所の環境を生かした企画をしたいと考えている。

通所者数が減った理由としては新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、感染への不安から数か月という長期間利用されない方もいた。また、社会参加につながる前の通所の練習として紹介を

受けた方があったが、家から近いとの理由で通所を断られたことがあった。

今後もそよかぜ日吉の周知や、通信の配布・家庭訪問を継続し、新規利用者を増やしていきたい。特に、近隣住民と協力しての写真展は好評であり、今後もこのような場をとの子をも聞かれた。地域活動支援センターの周知や障がい者の居場所として広めるために、今後もこのような機会を考えていきたい。

そよかぜ美山

※利用登録者数 …… 28 人(前年度：30 人)

※1 日あたり平均通所者数 …… 2.0 人(前年度：10.9 人)

今年度については、近隣にあった作業所が移転したため、休み時間の静養や休息を目的にした利用がなくなり通所人数が減少した。

そのような中でも、他の社会参加のしにくさがある通所者や、作業所や就労への準備段階として通所の経験を積む機会とし、生活の相談や不安を話す場を求められる方等、居場所としての機能を果たすことが出来た。

創作活動では、継続している絵画教室や、書道で制作した作品を、そよかぜ美山作品展として展示を行った。

次年度に向けての展望

生活困窮者の就労準備支援については、社会との接点が少ない、心身の調子や生活が整えにくい等、就労準備にも至っていない方も多いため、他機関と丁寧に連携を取りながら支援を提供していきたい。

地域活動支援センターについては知名度が低く、利用対象となる人やその周辺に周知されていない現状がある。今後も広報の推進に取り組み、障がい者への社会活動の支援を行っていきたい。

就労継続支援B型・生活介護事業

あじさい園

評価と課題

コロナ禍により、安全に開所することに努めた一年であった。利用者、家族、関係機関等の協力があった休業することなく事業を実施することができた。通所自粛は年度をとおしてほぼ見られたが、4月、5月が6名と最も多かった。

就労支援事業における減収は仕方ないものとする。春頃は、安全を考慮して一時期ではあるがクッキー製造を中止した。イベント販売が中止、委託販売先が休業、下請も停止状態となった。秋頃より生産活動は徐々に回復しはじめ、町内の新規企業様から受注もいただいた。南丹市や京都府、関係機関等のご支援があった年間の活動ができた。

当初中止していた音楽療養は、2 グループに分けて少人数で予防策をとることにより実施できた。多くの行事は延期や中止としたが、1月に「成人を祝う会」、3月に「あじさい園 20 周年を祝う会」を開催することができた。規模を縮小しての実施となったが、関係者の協力もあり温かな催しとなった。

また、3月には全ての利用者が1階で活動できるよう事業所のレイアウトを変更し、環境改善を進めてきた。

次年度に向けての展望

生産活動や行事などにおいては、コロナ禍により積極的な活動は難しいと考えている。事業所内でできることを中心に据えて、感染症予防に努めながら安全第一でサービスを提供していく。過ごしやすい環境、分かりやすい支援を構築するため職員育成にも力を注いでいきたい。

ひより舎

評価と課題

今年度は大きな目標であった新規事業の菓子製造販売事業を無事に12月より開始することができた。難しい社会情勢ではあったが、下請け事業など年間通して途切れることなく事業を実施できたことは大きな成果であった。新型コロナウイルスの流行により通所自粛や猛暑等により体調不良で通所率が低迷したが、新規利用者の増加もあり結果的にはプラス収支に転じることとなった。

就労支援事業では新型コロナの影響により、企業からの請負が減り露店販売事業も実施できない状況の中、職員のアイデアと努力によりマスク製造販売を開始した。

生活介護では新型コロナウイルス感染症対策を講じながら効果的な取り組みと支援を提供することができた。人や地域との交流、利用者個々の心身のリフレッシュなどコロナ禍の中であっても職員の創意工夫により効果的な支援が提供できた。ゆったりとした時間を毎日のプログラムに取入れ利用者の楽しみづくりも進めてきた。他機関との連携を密に、生活背景や健康状態を意識し支援を進めた。

両事業共通事項では予定していた日帰り旅行をはじめとするお出かけ、行事参加など楽しみにしているものがほとんど中止となり、ひより舎での楽しみをどう提供するか苦労をした。そうした状況の中、利用者の声に耳を傾け不安に応える事を優先しながら、個々のニーズに寄り添った作業内容の工夫やできる範囲の小さな楽しみをこまめにとることを積み重ねた。

次年度に向けての展望

今後、利用者の高齢化や障がいの重症化などの課題もあり通所率が下がることが予測されるが、新規利用者の確保に努めていきたい。支援では、ひより舎らしさと温かく個別性の高い支援を継続し、地域で安心して暮らし続けられるよう尽力していきたい。

高齢化や障がいの重症化などにより通所の継続ができてにくい利用者への対応も強化していきたい。事業の柱となる菓子製造事業の拡大を進め、利用者のより安定した収入の確保、働きがい地域とのつながりとなるよう進めて行きたい。